

平成24年度研究・教育活動報告

【人間文化学科】

Irwin, Mark

(1) 研究成果

論文 (単) :

「Rendaku Dampening and Prefixes」, 国立国語研究所論集 4: 27-36

「Style Guides and Reality」, The Journal of Medical English Education, 12.1: 12-14

「The Codification of Dictionary Traditions in Japanese Loanword Epenthetic Vowels」, 山形大学紀要 (社会科学) 43.2: 111-124

論文 (共) :

「Late Middle Japanese」, 「The Languages of Japan and Korea」, Tranter 編, 246-267頁. London & New York: Routledge.

発表 (単) :

「Rendaku Lovers, Rendaku Haters and the Logistic Curve」, Japanese/Korean Linguistics 22, 国立国語研究所, 東京.

発表 (共) :

「The First Statement of Lyman's Law」, 25th Paris Meeting on East Asian Linguistics, École des Hautes Études en Sciences Sociales, パリ

「Rendaku in the Kahoku Dialect of Yamagata, Japan」, Alberta Conference on Linguistics, University of Lethbridge, カナダ・アルバータ州

「Spatial Rendaku: Rendaku Across Dialects With Particular Reference to Yamagata」, 東京音韻論研究会, 東京大学

書評 (単) :

「A German Language Course on Historical and Linguistic Principles (Bluhme & Milinski, 2010, Lincom Europa)」 eLanguage 2013/5.

「The Phonology of Japanese (Labrune, 2012, OUP)」, The Linguist List 23: 5246

(2) 教育, 地域連携等の活動

担当科目 :

人文専門 : 言語学演習, 英語コミュニケーション上・中

基盤教育 : 英語(C)上級, 英語(R)上級

相沢 直樹

(1) 研究成果・研究活動

- 著書

『甦る『ゴンドラの唄』——「いのち短し、恋せよ、少女」の誕生と変容』新曜社、2012年11月

- ワークショップ

比較文学会東北支部比較文学研究会 ワークショップ「近代の声とテキスト」(2012年11月17日、山形テルサ) コーディネーター&コメンテーター

(2) 教育，地域連携等の活動

- 授業

(基盤教育) ロシア語Ⅰ，ロシア語Ⅱ

(専門教育) 比較文学講義，欧米文化演習，ロシア文化購読

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

「比較文学講義」で無謀にも薔薇の文学史を試みた。準備が大変だったが、とても楽しく有意義な時間を過ごせた。

公開講座「イメージの詩学——ヨーロッパを解く」を企画し、運営に携わった。学部の誇る多彩な講師陣のお蔭で盛況だった。

新聞・雑誌・ウェブなどで著書に対する様々な書評等を頂戴した。年の瀬に日本経済新聞の取材を受け、年明けの読書欄で紹介されたのも懐かしい思い出。

浅野 明

(1) 研究成果・研究活動

- 著作：監修 ロバート・B・ブルース他著／野下祥子訳『戦闘技術の歴史 ナポレオンの時代編』(創元社、2013年4月)

- 論文：なし

- 「ロシア史研究会」大会でのシンポジウム「祖国戦争200年」において、コメンテーターを務めた。(10月7日 於：立命館大学衣笠キャンパス)。

- 昨年度に引き続き、「パーリツィン研究会」の例会において、ロシア近世史に関する基本文献の訳読に参加した。(毎月1回 於：電気通信大学)

(2) 教育，地域連携等の活動

- 担当授業：西洋中世史入門(歴史学)，西洋史概論(一)，西洋史講義(一)，西洋史演習(一)，西洋史講読(一)

- 教員講習において、「西洋中世・近世史に関する最近の諸研究」と題する講義を行った。(8月1日 於：山形大学人文学部)

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

監修を行った著作は、『中世編』、『近世編』とともに戦闘技術史三部作を締めくくるものである。わが国においては類書がほとんどなく、好評をもって迎えられている。

阿部 宏慈

(1) 研究成果

(2) 教育、地域連携等の活動

1) 教育

基盤教育共通科目コミュニケーション・スキル2（フランス語）を担当した。また、欧米文化論専修ならびに比較文化・表象文化論専修の開講科目を担当し、両コースの卒業論文指導にあたった。

教育ディレクターとして人文学部の教育カリキュラムの運営に関わり、教育ディレクター制度の実質化の企画として山田浩久氏の授業における学生による被災地の調査とその成果報告書の刊行が実現した。

2) 地域連携活動

山形国際ドキュメンタリー映画祭理事として、映画祭の運営活動に携わった。また、バーバラ・ハマー、ペーター・ネスラーとともに、ライブツイヒドキュメンタリー映画祭に招かれ、バーバラ・ハマー、ペーター・ネスラーとともに、審査員（短篇ドキュメンタリー映画部門および若手によるドキュメンタリー映画部門）をつとめた。山形新聞に「偏愛映画」のコラム等を執筆した。河北町による「かほく町民ひなカレッジ」に講師として協力した。

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

科学研究費「現代視覚表象におけるメディア的身体の研究」による研究の一環として、アニメーション映画における身体の問題などをめぐって研究会をおこなった。また、ドキュメンタリー映画の研究を継続しておこなった。

阿部 晃士

(1) 研究成果

(論文)

- 阿部晃士, 2012年7月, 「社会的公正と承認への道筋」, 『社会学年報』, 40, 5-7頁.
- 阿部晃士・堀籠義裕・茅野恒秀, 2013年3月, 「被災地における郵送調査の実施過程—岩手県大船渡市での取り組み—」, 『社会と調査』, 10号, 76-80頁.
- 阿部晃士, 2013年3月, 「中学生の環境意識の類型と環境教育の効果—環境意識の3次元と環境的公正の意識—」, 小松洋(編)『循環型社会実現に向けた環境教育システム構築のための地域間世代間比較研究』平成21~24年度科学研究費補助金基盤研究(B)報告書, 37-48頁.
- 阿部晃士, 2013年3月, 「新潟県・新潟市の環境政策および環境教育政策」, 小松洋(編)『循環型社会実現に向けた環境教育システム構築のための地域間世代間比較研究』平成21~24年度

科学研究費補助金基盤研究(B)報告書, 79-87頁.

- 阿部晃士, 2013年3月, 「公害経験地域の環境教育に関する現状と課題」, 小松洋(編)『循環型社会実現に向けた環境教育システム構築のための地域間世代間比較研究』平成21~24年度科学研究費補助金基盤研究(B)報告書, 107-110頁.

(学会報告)

- 阿部晃士, 2012年7月16日, 「被災地における震災9カ月後の生活と意識—『復興に関する大船渡市民の意識調査』の分析—」, 第59回東北社会学会大会(山形大学).
- 阿部晃士, 2012年11月4日, 「震災からの生活再建に向けた意識の規定因—岩手県大船渡市における調査の分析」, 第85回日本社会学会大会(札幌学院大学).

(2) 教育, 地域連携等の活動

(担当授業)

- 社会調査法 I, 地域調査実習 I, 人間と職業, 環境保健学, 基礎演習, 専門演習, 卒業論文(5名)など(以上, 岩手県立大学)

- 社会統計学(新潟大学人文学部)

(地域連携)

- 盛岡市行政評価外部評価委員会委員
- 盛岡市廃棄物対策審議会委員
- 雫石・滝沢環境組合廃棄物減量等推進審議会委員
- 岩手県紫波町環境マイスター養成講座講師(2012年9月)

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究・教育とも前任校での活動です。研究面では、今後もこうした共同研究を継続する予定です。教育面では、これまでの経験を踏まえ、山形大学人文学部での学生指導に励んでまいります。

新宮 学

(1) 研究成果等

論文: 「中国近世の羅城—以明代南京の京城, 外郭城為例」『城市学論叢』第1輯(社会科学文献出版社)2012年4月289-315頁

研究報告: 「北京外城の出現」東アジア比較都城史研究会 2013年1月 京都(→『国際公開研究会《東アジア都城研究の試み》発表論文報告集』同年2月244-255頁)

海外調査:

2012年4月27日~5月5日 朝鮮における高句麗・高麗都城遺跡等調査

2012年8月13日~27日 河西廻廊・新疆の都城・石窟等調査

(2) 教育, 地域貢献等の活動

- 当該年度における授業(担当授業名)

[学部] 東洋史概論(一), 東洋史講義(一), 東洋史演習(一), 東洋史講読(一), 中国の歴史

(歴史学), マルコ・ポーロの『東方見聞録』を読む(教養セミナー), 卒業論文指導, 外国史概説(地域教育文化学部兼任) 地域貢献・学会活動

- 模擬講義:(a) 「時空を超えて一東アジア史研究への招待」2012年7月10日 山形県立米沢興譲館高校 (b) 「『東洋』とアジア—近代的世界像の形成」2012年10月26日 福島県立喜多方高校
- 高校訪問: 9月 仙台市内内の高校4校を訪問
- 教職免許状講習(高校地歴・中学社会): 「東アジアからみた世界史」8月2日

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動では, 前年度に引き続き基盤研究(A)「比較史的観点からみた日本と東アジア諸国における都城制と都城に関する総括的研究」(研究代表者 橋本義則)の研究分担者, および基盤研究(B)「朝鮮史における複都・副都の位置・構造・機能に関する調査研究」(研究代表者 田中俊明)の連携研究者として, 共同研究を行った。また小白川図書館長として, 図書館の教育機能の整備に務めた。

池田 光則

(2) 教育, 地域貢献等の活動

(a) 担当授業

- 学部専門教育科目: 言語学概論(一), 言語学概論(二), 言語学演習, ラテン語初級
- 基盤教育科目: 言語学概論(言語学), 言語学とその周辺領域(言語学), 英語
- 大学院: 言語学特論, 言語学特別演習

(b) 卒業論文指導テーマ

- 日本語広告における広告コピーの改行とそのリズムについて

(c) ゆうキャンパスステーションやまがた夜話講師: 「若者の東北方言」(2012年10月6日)

石澤 靖典

(1) 研究成果

[著書(共著)]

- 「ボッティチェッリの『神曲』素描における煉獄イメージ」, 『ベルリン国立美術館展』(展覧会カタログ), 国立西洋美術館(編), 2012年6月。

[翻訳(共訳)]

- アンソニー・グラフトン『アルベルティー—イタリア・ルネサンスの構築者』, 森雅彦他訳, 白水社, 2012年9月。

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業]

- 学部専門科目: 美学・芸術学特殊講義, 芸術文化概論, 芸術文化演習(一), 芸術文化演習(二), 芸術文化実習, 表象文化講義, 表象文化演習(前期), 表象文化演習(後期), 文化環

境学（一）、人間文化入門総合講義（一回分）、博物館実習

- 大学院科目：美学・芸術史特論Ⅰ

〔卒論指導〕

- 3名担当（平等院鳳凰堂庭園論、北斎の美人画研究、ムリーリョ研究）

〔地域連携等〕

- 講演：国立西洋美術館「都市の中の美術－イタリア・ルネサンスにおける聖なる画像と肖像表現」、2012年8月25日
- 講演：山形大学公開講座〔人文学部〕「イメージの詩学－ヨーロッパを解く」第1回「詩は絵のように－ボッティチェッリのヴィーナス像とポエジーア（詩想画）」、2012年6月14日；NHKカルチャー仙台 特別公開講座「バロック都市ローマの美と壮麗」、2012年11月17日；NHKカルチャー郡山 学びの秋教養講座「イタリア・ルネサンス絵画へのまなざし」、2012年11月24日

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では、ここ数年おこなってきた西洋における煉獄表象に関する研究の一部を発表することができた。また共訳書では、ルネサンス建築と都市論の章をおもに担当し、現在の研究に益するところ大だった。教育面では3名の卒論を指導し、いずれも個性的な力作に仕上がったように思う（うち一名は大学院に進学）。授業は講義形式のものや単発の講座が比較的多く、準備に追われがちだったが、新たに系統立てて調べることでできたテーマや興味深い発見などもいくつかあり、その点は収穫だった。また美学・芸術学特殊講義では特別招待講義として京都大の岡田温司先生（西洋美術史）をお迎えした。たいへん充実した内容のご講義で、学生には大きな刺激になったようである。学内委員としては進路指導委員（1年目）を担当し、インターンシップの指導にあたった。

磯野 暢祐

(2) 教育、地域連記等の活動

- 基盤教育として、フランス語Ⅰ（前期）を週4コマ、フランス語Ⅱ（後期）を週4コマ、フランス語Ⅲ（前期）を週1コマ担当。
- 専門教育では、言語学特殊講義（音声学）（前期）、言語学特殊講義（ロマンス語学）（後期）、フランス語学演習（中級）（前期）、フランス語文化講読（後期）、欧米文化基礎（前期に2回分）を担当。
- 大学院では、音韻論特論Ⅱ（前期）を担当した。

伊藤 豊

(1) 研究成果

- ① 「フェノロサはいかにフェノロサになったか—来日以前の教養形成について」（招待講演、2012年度日本フェノロサ学会第33回年次大会、2012年9月13日）
- ② 「大学時代のフェノロサ—『普通の若者』による学びと思想受容の体験—」（『山形大学人文

学部研究年報』〔10〕, 2013年2月)

- ③ 「大学院時代のフェノロサー若き日の知的環境と思想形成をめぐって―」(『Lotus: 日本フェノロサ学会機関誌』〔33〕, 2013年3月)

(2) 教育, 地域連携等の活動

- ① 基盤教育: 英語 R, 英語 CR
② 専門教育: 欧米文化基礎, 比較文化・表象文化基礎, 比較文化概論, 比較文化演習
③ 放送大学山形学習センター客員教員(通年), 同学習センターにて面接授業(前後期各1回)

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

特になし。

伊藤 晶文

(1) 研究成果

[学術論文等]

伊藤晶文(2012): 交通の拠点, 志布志, 野澤秀樹・堂前亮平・手塚 章編: 『日本の地誌10九州・沖縄』, 514-515, 朝倉書店.

伊藤晶文(2013): 庄内砂丘の砂丘砂の円磨度. 山形大学歴史・地理・人類学論集, 14, 1-5.

[学会発表]

伊藤晶文(2012): 山形県庄内砂丘の砂丘砂の粒度組成―特に浮遊物質に着目して―. 2012年10月. 2012年度東北地理学会秋季学術大会.

松本秀明・佐々木弘太・伊藤晶文・吉田 航・熊谷真樹(2013): 仙台平野中北部における洪水土砂流入期に関する研究. 2013年3月. 2013年日本地理学会春季学術大会.

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業]

(前期) 環境地理学概論, 環境地理学演習, 環境地理学調査実習, 地図を読む(教養セミナー)

(後期) 地圏環境論, 地圏環境論演習, 都市地理学調査実習, 自然地理学(地理学)

[地域連携]

国土交通省国土地理院 治水地形判定委員会委員(東北地区)

山形仙台圏交流研究会への参加

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

着任後1年を経て, ようやく山形県内のフィールドで研究成果を挙げる事ができました。今後も山形県を中心に東北地方のフィールドで成果を蓄積していきたい。

大久保清朗

(1) 研究成果

・論文

「少女の前でぬかずく僧侶——カール・ドライヤー『裁かるるジャンヌ』をめぐる覚書」、『中央評論』, 2012年11月（査読無）

・共著

南波克行編『スティーブン・スピルバーグ論』フィルムアート社, 2013年2月刊行

・口頭発表

「映画の反帰属性——『浮雲』における『日本ニュース』の使用について」日本映像学会第38回全国大会, 2012年6月, 九州大学

「『浮雲』における2つの戦後」, 共同研究「1950年代日本映画と日本文学との関連研究」, 2012年6月, 北海道大学

(2) 教育・地域連携等の活動

・教育

「フランス語Ⅰ・Ⅱ」（基盤教育共通科目コミュニケーション・スキル2）

「映像学講義」（比較文化・表象文化論専修）

「映像学演習」（比較文化・表象文化論専修）

卒業論文指導（3名担当）

・その他

『朝日新聞』『キネマ旬報』などで映画レビュー, 書評, DVDで映画解説を執筆。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動については, 大学院から継続して執筆してきた博士論文の最終的な完成が中心となった。

教育活動については昨年度（平成23年度）10月に着任後, 今年度が通年で授業を受け持つ最初となった。

教員生活に「慣れる」ことに要された年度であったといえる。

小熊 正久

(1) 研究成果

〔論文〕

「ブルーメンベルク著『コバルニクスの宇宙の生成』最終章の含意」（社会文化システム研究科紀要, H24.10）

「フッサール現象学における表象媒体の研究—知覚・想像・画像表象に関して—」（H25.3, 東北大学文学研究科提出博士論文）

〔研究発表〕

「フッサールの想像論」（東北哲学会第62回大会研究発表, H24.10, 東北大学）

(2) 教育, 地域連携等の活動

- 宮城県角田高校において出張講義を行う (H.24.10)
- 担当授業科目: 「ギリシア思想にみる自然観と人間観」(基幹科目), 「人間と世界」(基盤教育), 「西洋哲学史」, 「哲学講義(一)」, 「西洋哲学講読」, 「哲学演習二」(前・後), 「共生人間学一」, 「ギリシア語」(前・後), 「ヨーロッパ現代思想文化論特論Ⅰ」
- 指導した卒業論文題目: 「『存在と時間』における世界概念の分析」

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

- フッサールの「知覚」, 「想像」, 「画像表象」の分析を「表象媒体」という観点からまとめることができたが, その後, こうした関連で問題になる「内的時間意識」について考察を行っている(感覚所与やファンタスマの構成, 反省などの問題)。
- 現象学と分析哲学の観点から「表象媒体」についての科研による共同研究を継続中。

菊地 仁

(1) 研究成果

[論文]

- 「東北地方における炭焼き藤太・金売り吉次の伝説」
(『山形民俗』, pp.86-96, 2012年11月)

[シンポジウム報告]

- 「〈見返る西行〉の伝承像(西行の図像学)」
(第四回西行学会大会, 2012年9月30日・上智大学)

(2) 教育, 地域連携などの活動

[2012年度の担当授業]

• 前期

人間を考える(基盤教育) /

日本文化演習・日本古典文学講義 /

日本古代中世文化特論・アジア文化特別研究(大学院)

• 後期

山形に学ぶ(基盤教育) /

日本文化概論・日本文学演習 /

日本古代中世文化特別演習・アジア文化特別研究(大学院)

[地域連携等]

- 飽海地区高等学校国語教育研究協議会, 2012年5月17日
講演「説話をどう読んだらよいかー『今昔物語集』に描かれたひとつの〈噂話〉ー」
- 山形市北部公民館主催講演会, 2012年6月30日
「山形市北部の炭焼藤太伝説」
- 山形大学都市・地域学研究所プロジェクト

〈最上義光シンポジウム～最上義光没後400年を記念して～〉, 2012年7月21日

「最上義光をめぐる伝説—山伏・御伽衆・狂歌—」

・福島県立橘高等学校・学問分野別講義, 2012年10月29日

「絵画から読む平安朝物語」

・放送大学（山形学習センター）客員教員

許 時嘉

(1) 研究成果

【論文】

・「東アジアの近代化における前近代的な服飾の変容と逸脱：植民地台湾の断髮言説に現れる文明イデオロギーをめぐって」, 『文化記号研究』1, 文化記号研究会, pp108-134, 2012年3月。

【書評】

・「林満紅著『銀線：19世紀的世界與中国』を読む」, 『文化記号研究』2, 文化記号研究会, pp.209-216, 2013年3月。

【研究発表】

・「初山衣洲日記解説：一個日治初期の日人生活圖像」, 中央研究院台湾史研究所・国立成功大学歴史学科・国立台湾歴史博物館共催「日記與社會生活史學術研討會」, 台南：国立台湾歴史博物館, 2012年11月15-16日

・「鶯花不若京華好：試論日本傳統文人的海外經驗與東亞認識（1880-1912）」, 中央研究院台湾史研究所公開講演, 2013年1月25日

【翻訳】

・三澤真美恵氏著, 李文卿・許時嘉共訳, 『在帝國與祖國の夾縫間——日治時期台湾電影人の交渉與跨境』, 台北：台大出版中心, 2012年6月, pp1-405〔担当部分：pp1-243〕。

(2) 教育・地域連携等の活動

特になし

清塚 邦彦

(1) 研究成果

(a) 研究業績

(著書・共著)

・澤田治美編『ひつじ意味論講座』第6巻（2012年12月）（「意味と含み」63-79頁を執筆）。

・戸田山和久ほか編『これが応用哲学だ！』大隅書店（2012年5月）（「芸術作品とはどのような対象なのか？」187-197頁を執筆）。

(論文)

・「実在しない事柄をよろこび, かなしむこと」, 『思索』（東北哲学研究会）, 第45巻1号, (2012年10月), 85-108頁。

(翻訳)

- 『MIT 認知科学大辞典』共立出版, 2012年11月 (「意味」と「意義と指示」「指標詞と直示詞」「自己認識」「自然種」の5項目)。

(b) その他の研究活動

日本科学哲学会 『科学哲学』編集委員

日本哲学会 『哲学』編集委員

日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員

(2) 教育, 地域連携等の活動

(a) 担当授業

(基盤教育)

「哲学ってどんなこと? (哲学)」(前・後期)

(専門教育)

「哲学基礎」(後期), 「人間情報科学基礎」(後期), 「論理学概論」(前期), 「哲学概論」(後期),

「現代応用倫理」(前期), 「情報記号論」(後期), 「情報記号論演習」(前・後期)

卒論指導担当2名

小泉 有紀子

(1) 研究成果

研究発表(単)・大学英語教育における全学共通プログラムについて: 米国ライティング共通教育の例に見る. 全国英語教育学会第38回大会, 愛知学院大学 2012年8月

研究発表(単)・文理解における統語と韻律・情報構造のインターフェイスについて一日英語における否定と焦点の作用域曖昧性の処理を中心に 第82回かがみやま言語学コロキウム 2013年2月(招待講演)

研究論文(単). 大学英語教育における全学共通プログラムについて: 米国大学ライティング共通教育の例にみる 東北英語教育学会研究紀要第33号. 2013年3月 pp39-48.

(2) 教育, 地域連携等の活動

(担当授業) 英語コミュニケーション・英語リーディング (基盤教育)

(その他)

山形県英語教育研究会 第64回東南置賜地区 中高英語弁論大会 審査員を務めた。

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

平成25年度4月, 本学基盤教育院より人文学部に異動してきました。今後は人文学部という大きな組織の中で, 研究面でも教育面でも刺激を受けながら, より幅広く積極的に活動していきたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

坂井 正人

(1) 研究成果

〔口頭発表〕

1. 「山形大学のナスカ地上絵研究」(坂井正人) アンデス文明研究会, 東京外国語大学, 2012年5月19日.
2. 「アンデス文明と環境: ナスカの地上絵をめぐって」(坂井正人) シンポジウム「環太平洋の環境と文明を考える」札幌大学, 2012年6月02日.
3. Colinas y Monticulos Sagrados de las Pampas de Nasca. (Masato Sakai, Jorge Olano) 54 Congreso Internacional de Americanistas. University of Vienna, Austria. 2012年7月17日
4. Las Actividades Humanas en las Pampas de Nasca durante las fases Ocucaje Tardío y Nasca Inicial. (Masato Sakai, Jorge Olano) , Simposio Paracas-Nasca. Universidad Nacional San Luis Gonzago de Ica, Peru. 2012年8月11日.
5. 「ナスカの地上絵の調査からみた食と儀礼」(坂井正人) 日本文化人類学会公開シンポジウム『食と儀礼をめぐる地球の旅』, 東北大学, 2012年11月10日.
6. Proyecto de Investigacion Arqueologica de las Lineas y Geoglifos de las Pampas de Nasca. (Masato Sakai, Jorge Olano) , Asociacion de guias de Nasca. Museo Didactico Antonini, Peru. 2012年12月14日.

〔著書・論文〕

1. Informe Final del Proyecto de Investigación Arqueológica de las Líneas y Geoglifos de la Pampa de Nasca (Cuarta Temporada). (Masato Sakai, Jorge Olano) Ministerio de Cultura del Perú, pp.1-258.
2. 「民族学と気候変化: ペルー南部海岸ナスカ台地付近の事例より」『第四紀研究』51(4):231-237.
3. 「アンデス文明と環境: ナスカの地上絵をめぐって」『札幌大学附属総合研究所 BOOKLET』6:61-74.

(2) 教育, 地域連携等の活動

〔担当授業〕「モノと人 (基幹科目)」, 「文化人類学入門 (文化論)」, 「文化人類学・宗教史基礎」, 「比較地域生態概論」, 「文化人類学・宗教史講義 (二)」, 「文化人類学・宗教史演習 (二)」, 「文化人類学・宗教史演習 (三)」, 「文化人類学・宗教史実習 (二)」

〔卒業論文〕 9名

〔地域連携〕

1. 「山形大学のナスカの地上絵研究」小さな天文学者の会, 山形大学理学部, 2012年6月9日.
2. 「山形大学におけるナスカ地上絵研究」栃木県立足利高等学校, 2012年11月22日.
3. 「山形大学のナスカ地上絵研究について」東北5社会・報道部長会議, 山形新聞社本社, 2013年1月31日.
4. 「山形大学のナスカ地上絵研究について」寒河江市PTA連合会・教育懇談会, ホテル・サンチェリー, 2013年2月1日.

5. 「山形大学のナスカ地上絵研究」山形大学OBセミナー, 山形大学東京サテライト, 2013年3月2日.

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

山形大学人文学部附属ナスカ研究所が, YU-COE (E) (山形大学先進的研究拠点) 形成支援を受けて, 南米ペルー共和国ナスカ市内に10月30日に開所した。この研究所を拠点として, 今後, 山形大学のナスカ研究を展開する予定である。

ナスカの地上絵に関する現地調査・国際共同研究を, 平成24年度は8月~12月に実施した。この調査・研究は, 「環太平洋の環境文明史」計画研究 A03 「アンデス文明の盛衰と環境に関する学際的研究」(科学研究費補助金・新学術領域研究) および「ナスカ地上絵の学際的研究における次世代研究者養成とネットワーク構築」(頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム) によって実施された。また後者の資金を使って, 若手研究者をロンドン大学(英国), ビジャレアル大学(ペルー) に留学させることで, 若手研究者の育成に努めた。

さらに, ペルー北部高地のパコパンパ遺跡研究(科学研究費補助金・基盤研究(A)・研究代表者・国立民族学博物館教授・關雄二) に分担者として参加し, この遺跡の景観構造に関する分析を実施した。

講義と演習では, 世界の諸民族に関する事例(占い, 俗信, 人類学と科学など)を検討することで, 文化人類学の基本的な考え方, 民族誌の読み方と議論の仕方について扱った。

佐藤 清人

(1) 研究成果

佐藤清人「太平洋戦争後の日系アメリカ人社会—ジョン・オカダの『ノー・ノー・ボーイ』—」『IVY』, 第45巻, 37-54頁, 2012年。

(2) 教育, 地域連携等の活動

出張講義

平成24年9月13日 秋田県立横手高等学校

平成24年11月16日 福島県立須賀川桐陽高等学校

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

研究では, 日系アメリカ文学の研究を継続的に行っている。

基盤教育の英語では, 日本人が間違いやすい日本語と英語の違いに重点を置き, 実用的な英語の習得を目指した。

専門教育では, 英米文学の基礎的知識の養成を図るべく, 授業を行った。

嶋田 珠巳

(1) 研究成果

[論文]

- “The do be form in southwest Hiberno-English and its linguistic enquiries”, Festschrift for Professor Hiroshi Kumamoto, 『東京大学言語学論集』第33号熊本裕先生退職記念号, 255-271頁, 2013年3月.

[学会発表等]

- “Hiberno-English as a Link: Is there a possible continuum between creoles and this English dialect?”, Creolistics 9, オーフス大学 (デンマーク), 2012年4月.
- “Exploring linguistic connections between Ireland and the Eastern Caribbean”, Sally Delgado との共同発表, 6th Eastern Caribbean Islands Cultures Conference on the Languages, Literatures and Cultures of the Eastern Caribbean (6th ISLANDS IN BETWEEN), バージン諸島大学 (米国領セント・トーマス), 2012年11月.
- 「移民言語とはなにかーコミュニティ環境と接触現象から考える」, 第10回東京移民言語フォーラム, 東京大学, 2013年3月.

(2) 教育, 地域連携等の活動

授業担当: 実践英語 III, 英語(C)/(R), 現代外国語 (英語).

出張講義: 「高校までの英語, 大学からの英語」, 山形県立新庄南高等学校, 2012年9月.

(3) 研究・教育活動に関するコメント

平成24年度前期は, 山形大学海外研究グローイングアッププログラムにより, 英国ケンブリッジ大学にて研究活動を行った (研究課題: 「英語の多様性と言語のダイナミズムに関する研究」).

鈴木 亨

(1) 研究成果

論文

- 「構文における創造性と生産性—創造的な結果構文における非選択目的語の認可のしくみ」, 『山形大学人文学部研究年報』第10号, 109-130.

研究発表

- 「結果構文における非選択目的語の意味解釈—文法の規範性と創造性のはざままで」, 日本英文学会東北支部大会シンポジウム「周辺の事例分析から考える結果構文の再評価—形式・意味・言語使用の視点から」における発表 (於岩手県立大学, 2012年11月).

(2) 教育, 地域連携等の活動

- 担当授業: 英語 C, 英語 R, 英語学特殊講義, 英語学概論 (二), 英作文 (中級), 英語語法論特論, 特別研究

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では、英語の非選択目的語を伴う結果構文を素材に、創造的な言語表現と文法制約の関係について考察を進めた。教育面では、複数の専門授業で時間外の課題として多読レポートを課すなどの方法で、学術面だけでなく多面的に英語力を養成することに努めた。

千葉 清史

(1) 研究成果

(a) 研究業績

[論文]

1. “Dummettsche Formulierung des Realismus/Anti- Realismus”, 京都大学文学研究科西洋哲学史研究室編, PROLEGOMENA 第3号, 2012年12月.
2. 「ヘンリー・アリソンの方法論的二側面解釈」, 日本カント協会編, 『日本カント研究13: カントと形而上学』, 理想社, 2012年10月.
4. 「『純粹理性批判』第二版「観念論論駁」の論証上の特性」, 『哲学論叢』第39号, 2012年10月.

[研究発表]

1. 「今日の超越論的観念論解釈の多様性」, カント研究会第260回例会, 法政大学, 2012年4月.

(b) その他の研究活動

1. 「英国カント協会二〇一一年度大会参加報告」, 日本カント協会編, 『日本カント研究13』, 理想社, 2012年.

(2) 教育・地域連携等の活動

(a) 担当授業

[教養教育]

ドイツ語 IIA1 (人文・理学部向, 後期) ドイツ語 IIA2 (工学部向け, 後期)

[専門教育]

哲学演習 (三) (後期), 哲学基礎 (後期)

(b) 地域貢献

特になし

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

平成23年10月より山形大学に赴任し、以来こちらで教育・研究活動に従事させていただいている。専門の哲学研究だけでなく、教授法や授業運営・成績評価の方法等についてもいろいろと学んでいるところである。

富澤 直人

(1) 研究成果

“On the lack of reconstruction effects: Interaction of late-adjunction, linearization, and semantic interpretation,” Bulletin of Yamagata University (Humanities) 17, 47-64. (2013年2月)

(2) 教育, 地域連携等の活動

学部：英語学概論（一）、英語学特殊講義、言語学基礎、実践英語（二）

基盤：英語R

高校生対象の模擬講義・学部学科説明会・進路相談会

富田かおる

(1) 研究成果

“Phonetic Features in Spontaneity” Bulletin of Yamagata University (humanities) 17:4, 65-83.

(2) 教育, 地域連携等の活動

担当授業

英語学演習、言語学基礎、英語(R)、英語(C)

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

言語の生成を主なテーマとし、特に発話の音響分析を基に、英語母語話者と日本人英語学習者の母音とピッチ測定と特徴分析を行った。

中澤 信幸

(1) 研究成果

〔論文〕

- ・「日本語の漢音・呉音と台湾語の読書音・俗音」、『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』9, pp.59-68, 2012年10月

〔学界展望〕

- ・「2010年・2011年における日本語学界の展望 音韻（史的研究）」、『日本語の研究』（日本語学会）8-3（250）, pp.51-58, 2012年7月

(2) 教育, 地域連携等の活動

〔担当授業〕

- ・学部専門科目：日本語（一）、日本語学概論（二）、日本語学特殊講義、日本語学演習、日本語学講読、言語学基礎、国語の教材研究B
- ・大学院科目：日本語史特論I、日本語史特別演習
- ・基盤教育科目：日本語と他の言語との共生（共生を考える）、日本語の歴史（言語学）、遠い方言、近い方言（地域学）

〔卒業論文〕

「近代日本語文体の成立 ―二葉亭四迷の作品を中心に―」

「『怪談牡丹燈籠』の表記の研究 ―熟語と振りがなとの関係を中心に―」（以上2本）

〔地域連携〕

- ・井上ひさし著『私家版日本語文法』を読む, NHK 文化センター山形教室講座, 2012年4月14日・6月9日・16日・7月14日・8月11日・9月8日・10月13日・11月17日・12月8日・2013年1月12日・2月9日・3月9日
- ・井上ひさし著『私家版日本語文法』に見る日本語意識, 2012年度山形大学都市・地域学研究所公開講座「山形の魅力再発見パート10」, 2012年10月13日

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

科学研究費(基盤研究(C), 研究課題名:現代版「日台字音便覧」データベースの整備と「日台基本漢字」発音対照表の構築, 課題番号:23520544, 研究期間:平成23~25年度, 研究代表者:中澤信幸)により,「日台基本漢字」発音対照表データベースを整備した。またこれに関連する論文執筆も行った。一方地域連携については,昨年度に引き続き井上ひさしの著作に関する講座を行った。

中村 篤志

(1) 研究成果

論文

- 1.「清朝宮廷におけるモンゴル王公——光緒9-10年乾清門行走日記の分析から」新宮学編『近世東アジア比較都城史の諸相』白帝社(2013年度刊行予定)
 - 2.「清朝とモンゴルの相互認識——清朝宮廷儀礼を手がかりに」高麗大学韓国史研究所編『国際シンポジウム“東アジア歴史の実体と新しい清史研究の方向を探って”』117-129頁,2012年国内学会発表
- ・「モンゴル遊牧社会の地域小集団をめぐって:フルンブイル地域のアイマクを事例に」日本モンゴル学会春季大会,2012年5月19日(於:昭和女子大学)国際学会発表
 - ・「清朝とモンゴルの相互認識——清朝宮廷儀礼を手がかりに」国際シンポジウム「東アジア歴史の実体と新しい清史研究の方向を探って」,2012年10月19日(於:韓国高麗大学)

(2) 教育・地域貢献等の活動

〔担当授業〕

東洋史概論(二),東洋史講義(二),東洋史演習(二)※前後期,東洋史講読(二),歴史学基礎,文化人類学・宗教史講義(三),北アジア遊牧民の歴史(基盤・教養・歴史学),モンゴル語の歴史(基盤・教養セミナー)

〔教育活動〕

- ・卒論指導:中国近世史1名の卒業論文を指導した。

〔地域貢献活動〕

- ・出張講義:岩手県立盛岡北高等学校「モンゴル遊牧社会の過去と現在:養子・地縁を手がかりに」2012年6月20日

- 出張講義：山形県立鶴岡南高校「移ろう宮廷：清朝皇帝の熱河巡幸とモンゴル王公」2012年9月26日

(3) 平成24年度の研究、教育活動に関するコメント

- 基盤研究 A（海外調査）「東北アジアにおける辺境地域社会再編と共生様態に関する歴史的・現在の研究」（代表：岡洋樹）の研究分担者として、清代モンゴルにおける地域社会の変容、地方都市における文化接触に関する研究を進めた。
- 若手研究 B「清代モンゴル遊牧社会における王公支配と地縁結合」の研究代表者として最終年度の成果をまとめ、内モンゴル・フルンブイル地域の地縁集団などに関する研究を進めた。
- 以上の諸研究に応じて、8月と1月に台湾、10月に韓国で調査および発表を行ったほか、東京、山口などで調査・発表を行った。

中村 隆

(1) 研究成果・研究発表

- 共著：『『荒涼館』国家・警察・刑事・暴力装置』、『ディケンズ文学における暴力とその変奏—生誕二百年記念—』（大阪教育図書、2012年10月、pp.149-64）

(2) 教育、地域連携等の活動

【教育】

基盤教育について。基盤教育の英語(R)および(C)では、山形大学の学生ならば、ネット上で24時間アクセスが可能な ALC NeAcady2を予習と復習の基本教材とし、速読(R)とリスニング(C)の練習をした。また、グループワークによる音読、発話練習を繰り返し行い、ナチュラルな英語のリズムを身体で覚えることを重点課題とした。

学部の専門教育について。英米文学講読では、The Japan Timesなどに掲載された文学・文化系の英語エッセイを、語彙の獲得、英文法・構文の高度な理解を目標として、英語で精読した。英文学特殊講義では、探偵小説の系譜を主題として、英米の探偵小説について、その起源・発展を中心に論じた。

【地域連携等】

平成24年度 山形大学公開講座 [人文学部]「イメージの詩学—ヨーロッパを解く」において「聖像破壊者ホガースが描いた娼婦」と題して講演した（2012年6月18日）。

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面について。ディケンズの『荒涼館』という中期の小説を、警察と暴力という観点から読み直し、ディケンズ生誕二百年記念の共著本の一章にまとめた。また、メイヒューの『ロンドンの貧民とロンドンの労働』という大著の詳細なテキスト分析を行った。

教育面について。基盤教育では、ALC NeAcady2というコンピュータ利用の英語学習を効果的に取り込むことができた。専門教育においては、英米文学講読に関しては、英語の厳密な精読に取り組んだ。英文学特殊講義では、毎回講義へのコメントを書かせるようにし、双方向の講

義に努めた。

中村 唯史

(1) 研究成果

[著書]

1. 『ことばの杜へ』(共著, 山形新聞社編, 荒蝦夷, 2012年7月)
2. 『再考ロシア・フォルマリズム: 言語・メディア・知覚』(共編著, せりか書房, 2012年9月)
3. *Imagining the Landscape: Views from Armenia and Japan* (編著, Slavic Research Center of Hokkaido University, 2013年2月)

[論文]

1. 1910-20年代のエイヘンバウム: フォルマリズムとの接近と離反の過程, *スラヴ研究* (北海道大学スラブ研究センター), 59号 (2012年6月), 25-59ページ
2. Заполнить небо над Аустерлицем: взгляд М.Бахтина на Л. Толстого, *Rossica Lublinensia* (Wydawnictwo Uniwersytetu Marii Curie-Skłodowskiej), VII (2013年1月), pp.289-296. (「アウステルリッツの空を埋める: バフチンのトルストイ観」, 『ルブリン・ロシア研究』(ポーランド, マリー・キュリー大学出版局) 7号)
3. *On the Landscape in Modern Japanese Culture*, Nakamura Tadashi (ed.) "Imagining the Landscape: Views from Armenia and Japan" (Slavic Research Center of Hokkaido University), 2013年2月, pp. 69-79.

[書評・エッセイ等]

1. 書評・高野史緒編『時間はだれも待ってくれない: 21世紀東欧SFファンタスチカ傑作集』, 『ユーラシア研究』(東洋書店), 46号 (2012年5月), 70-71ページ
2. 2012年回顧 ロシア文学, *週刊読書人*, 2970号 (2012年12月), 6ページ
3. 山形新聞文化欄コラム「〈ことばの杜〉へ」: 「フォードル・ドストエフスキー『カラマゾフの兄弟』(2012年7月14日)」, 「高浜虚子『落葉降る下にて』(同9月8日)」, 「スーザン・ソントグ『写真論』(同11月3日)」, 「レフ・ヴィゴツキー『思考と言語』(同12月29日)」, 「松田道雄『支配の論理と抵抗の論理』(2013年3月2日)」

[口頭発表]

1. 近代日本文化における風景について (ロシア語), 国際ラウンド・テーブル「Imagining the Landscape」, 2012年9月12日 於アルメニア共和国エレヴァン市スラヴ大学人文科学研究所
2. 大戦間期の日本とソ連の文芸における「声」, 2012年度日本比較文学会東北大会 2012年11月17日, 於山形テルサ

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業]

基盤教育: ロシア語 I, ロシア語 II

専門教育: 比較文化・表象文化基礎, 表象文化演習, 欧米文化概論, 欧米文化演習, ロシア語学

演習, ロシア文化講読

大学院：ソ連東欧文学特論, 同特別演習

[指導卒業論文テーマ]

「現代女性像の変遷とヤマシタトモコの描く女性」, 「擬人化という現象」, 「トーヴェ・ヤンソン研究」, 「“創作”の有効射程」, 「妖怪の表象」, 「人魚表象の研究」, 「高野文子のまんが表現」

[地域連携等]

- 非常勤講師：宮城学院女子大学（表象文化論）
- 北海道大学スラブ研究センター共同研究員
- 日本ロシア文学会理事, 国際交流委員長, 学会賞選考委員
- ロシア東欧学会編集委員
- 日本比較文学会東北支部役員
- 「ロシア語ロシア文学」, JSSEES 誌査読
- 出張講義

1. 北海道立札幌月寒高等学校 「人文科学の現在と意味：“街の記憶”を考える」（2012年11月1日）

2. 山形県立高島高等学校 「映画とアニメから見るソ連社会」（2012年11月27日）

• 講演

1. 無対象絵画の成立まで：もう一つの近代ロシア文化史, 平成24年度山形大学人文学部公開講座「イメージの詩学：ヨーロッパを解く」, 2012年6月21日

2. 山形フォーラム「ロシア映画館シリーズ」解説：

36回『愛していたが結婚しなかったアーシャ』（2012年4月27日）, 37回『戦艦ポチョムキン』（同5月25日）, 38回『メキシコ万歳』（同6月29日）, 39回『不思議惑星キン・ザ・ザ』（同7月20日）, 40回『火を噴く惑星』（同8月24日）, 41回『火の馬』（同9月28日）, 42回『チェチェンへ：アレクサンドラの旅』（同10月19日）, 43回『帽子箱を持った少女／青い青い海』（同11月30日）, 44回『コミッサール』（同12月20日）, 45回『シベリア物語』（2013年1月18日）, 46回『 staf王の野蛮な狩り』（同2月22日）, 47回『大地』（同3月29日）

• 山形新聞「山新文学賞」選評担当（月1回）

(3) 平成24年度の研究, 教育活動に関するコメント

特になし

西上 勝

(1) 研究成果

なし。

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業]

研究科：中国中世文化論特別演習, アジア文化特別研究など

専門教育：中国文学概論など

基盤教育：共通科目・コミュニケーションスキル2・中国語Iなど

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

昨年度に引き続き、地域連携活動の一環として、山形大学人文学部を会場として実施された三回の中国語検定試験（第77回から79回）に試験監督者及び会場責任者として参画した。

福野 光輝

(1) 研究成果

○分担執筆

福野光輝 (2012). 交渉とは 佐々木美加 (編著) 交渉の心理学, ナカニシヤ出版, 1-43.

Ogata, K., & Fukuno, M. (2012). The effect of positive information on a truth/lie judgment. *Tohoku Psychologica Folia*, 71, 28-32.

○学会発表

福野光輝 (2012). 努力の可視性が報酬分配におよぼす効果. 東北心理学研究, 62, 15.

福野光輝 (2012). 対人葛藤における間接方略. 日本応用心理学会第79回大会発表論文集, 84.

小形佳祐・福野光輝 (2012). 嬉しい嘘を見抜けるか. 東北心理学研究, 62, 19.

(2) 教育, 地域貢献等の活動

○担当授業

「スタートアップセミナー」(前期)

「調べて書く心理学(教養セミナー)」(前期)

「人間行動の科学(教養科目・文化と社会)」(後期)

「社会心理学概論」(前期), 「社会心理学演習」(前期・後期)

「心理学実験」(前期)

「心理学特殊実験」(前期・後期)

「行動科学情報処理実習」(前期)

「社会心理学概論」(東北大学非常勤, 後期)

「社会心理学演習/心理学研究演習I」(東北大学非常勤, 後期)

○教育活動成果

「調べて書く心理学(教養セミナー)」

福野光輝×山形大学基盤教育「調べて書く心理学ゼミ」(2012). プロフェッショナル：仕事の奥義(199ページ, 未公刊)

「スタートアップセミナー」

大泉友奈(2012). 縦のつながりが強い社会をつくる 第7回NRI学生小論文コンテスト(野村総合研究所主催)佳作入賞 <http://www.nri.co.jp/publicity/contest/results2012/>

進学実績

北海道大学大学院文学研究科(2012年度卒業論文指導学生から1名)

○卒業論文指導

- 「送り手の魅力が依頼に与える影響：類似性が承諾を促すか」
- 「一般的信頼は顔で判断できるのか」
- 「第三者の存在が栄光浴に及ぼす影響」
- 「作業領域の明確化は社会的抑制を低減するか」
- 「CMCにおける自己開示満足感が孤独感に及ぼす影響」
- 「親密な他者からの模倣が自己制御に及ぼす影響」
- 「利他的行動における見透かされた感覚と目の効果」
- 「ポジティブ感情の覚醒度が課題成績に及ぼす効果」
- 「コントロール欲求がポジティブ関係コーピングの使用満足度に与える影響」

○出張講義

福野光輝（2012）. はじめての心理学.（宮城県仙台向山高等学校，宮城県仙台市，2012年10月31日）

○社会貢献活動

独立行政法人大学入試センター教科科目第一委員会委員「公民（倫理）」（平成22年4月1日～平成24年3月31日）

福山 泰男

(1) 論文

「秦嘉の情詩について」（『山形大学人文学部研究年報』第10号，平成25年2月）

(2) 教育，地域連携等の活動

- 新規の「異文化間コミュニケーションⅠ」プログラム実施に向け，平成25年2・3月に台湾師範大学と協議を進めた。（その後，平成25年9月に実施。）
- 河南師範大学と連絡し同校訪問団を平成24年6月に人文学部に受入れ，今後の教育・研究交流について協議した。
- 哈爾濱工業大学（中国）・中山大学（台湾）・全南大学（韓国）との交流窓口を担当する平成24年度国際交流コーディネーターとして，交換留学等，学生交流を推進した。
- 山形大学優秀教育者賞（第1回，平成24年12月）を受賞。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

- 研究活動については，海外における成果発表がなく不満が残る。平成25年度に期したい。
- 教育活動は，学生の異文化コミュニケーションを促進する新たな留学プログラムを企画・開発，実施に至らしめることができた。

藤澤 秀光

(1) 研究・教育活動

(2) 教育・地域連携等の活動

[担当授業名]

・学部：アメリカ研究演習，アメリカ研究特殊講義

英語(R)Ⅱ，欧米文化概論，人間文化基礎演習

・大学院：英米現代文化論特論，英米現代文化特別演習

[地域連携活動（ボランティア）]

国際ロータリー第2800地区財団奨学生選考委員

国際ロータリー第2800地区財団ロータリー学友会代表幹事

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

ユダヤ系，日系といったアメリカの少数民族に関する小説，演劇，雑誌，新聞，広告，CM，映画，TV番組，音楽，スポーツといった，文字化，音声化，映像化された文化的生成物を対象にした研究を行っています。

教育活動としては山形県のロータリークラブの財団奨学生のアドバイザーとして，奨学金の申請から海外の留学先の大学，大学院決定までの指導を行っています。ちなみに，本年度は市内の中学教師をカナダのマギル大学大学院に留学できるように指導しました。

本多 薫

(1) 研究成果

論文

1) 本多薫，門間政亮：ナスカ台地におけるラインセンター間の移動について一歩行実験による歩行経路と心拍の変化からの検討一，山形大学大学院社会文化システム研究科紀要，第9号，p.1-12,2012.10

2) 本多薫：コンピュータ・ディスプレイのワイド化・大型化に伴う情報表示に関する検討一表示された情報の反応時間と表示位置について一，山形大学人文学部研究年報，第10号，p.99-108,2013.2

学会発表

1) 本多薫：パーソナル・コンピュータの長時間の使用による負担の測定，日本教育工学会第28回全国大会講演論文集（長崎大学），p.987-988,2012.9

2) 本多薫，本多ふく代：多種類のパーソナルテンポおよび心拍の比較，日本生理人類学会第66回大会要旨集（長崎ウエスレヤン大学），p.92-93,2012.5

(2) 教育，地域連携等の活動

授業：（教養）情報処理；（学部）公務員対策セミナー，共生人間学Ⅱ，人間情報科学概論，人間情報科学基礎，人間情報科学演習，人間情報科学実習，コンピュータ・ネットワーク論，人間工

学（地教）；（大学院）人間情報科学特論Ⅰ，人間情報科学特別演習
卒業研究の指導（人間情報科学専修担当として指導）：

(a) マーカー型拡張現実におけるCGの視認性に関する研究

地域貢献活動等：

- (a) 大学訪問（聖和学園高等学校）模擬講義を担当
- (b) 日本経営工学会東北支部 運営委員
- (c) 日本人間工学会 代議員
- (d) 日本人間工学会東北支部 支部役員
- (e) 土木学会 地下空間研究委員会 心理小委員会 委員

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

平成24年度は、学習支援システム（パソコン）の長時間の使用による生体負担に関する研究、ナスカの地上絵の情報科学の視点からの実験・分析などを実施した。また、教育としては、情報科学関連の講義を担当するとともに、共同で卒業研究の指導を行った。

松尾 剛次

(1) 研究業績

1. 著書（単著1，共著1）

1) 『知られざる親鸞』（単著）平凡社新書，2012年

2) 遊学館ブックス『地域学が担うもの』（共著）（助）山形県生涯学習財団，2013年3月

2. 論文（5）

1) 「中世律宗と文化」『日本思想史講座2—中世』，（株）ぺりかん社，2012年7月

2) 「安達峰一郎と満州事変関係の新資料の紹介」『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要第9号』，2012年10月

3) 「天皇から賜った紫衣の物語」『大法輪 知っておきたい天皇と仏教』，大法輪閣，2012年12月1日

4) 「日本仏教史における恵鎮門流の位置付け—伊予等妙寺にも触れつつ—」『平成24年度鬼北町歴史シンポジウム 中世等妙寺—寺院創立の謎にせまる—講演・シンポジウム記録報告』，鬼北町教育委員会編集・発行，2013年2月

5) 「叡尊教団の紀伊国における展開」『山形大学人文学部 研究年報 第10号』，2013年2月

その他（新聞記事，書評，講演など）

1) 「震災を経て見直す動き」『夕刊 読賣新聞』2012年4月5日号

2) 「仏教人物伝 道元」『ユーキャン出版事業部 やすらぎ通信』2012春号，2012年4月10日

3) シンポジウム「親鸞聖人の御生涯を再考する」（専修寺内 高田会館ホール）2012年4月14日

4) 監修「奈良仏教南都六宗の謎」『一個人』2012年9月号

5) 書評「久野修義著『重源と栄西』」『山形新聞』2012年6月10日

6) 書評「ルチア・ドルチェ，松本郁代編『儀礼の力』」『宗教研究』第86巻 373-2, 2012年9

月

- 7) 書評「久野修義著 日本史 リブレット人027『重源と栄西－優れた実践的社会事業家・宗教者』」『日本史の研究』238, p45-48, 2012年9月
- 8) 講演「ジブリ作品と宗教学」市中教研1日研修会 2012年9月12日
- 9) 講演「親鸞伝再考」本願寺布教講師会 2012 9月13日
- 10) 書評「前川健一著『明恵の思想史的研究－思想構造と諸実践の展開』」『日本思想史学』第44号, 2012年9月
- 11) 書評「関幸彦著『承久の乱と後鳥羽院』」『山形新聞』2012年10月21日
- 12) 講演「日本仏教における恵鎮教団の位置づけ」愛媛県宇和郡鬼北町 2012年11月3日
- 13) 書評「元木幸一著『笑うフェルメールと微笑むモナ・リザ』」『山形新聞』12月2日
- 14) 『週刊仏教タイムス』2012年12月13日号に「仏教・宗教関係書 今年の3冊 2012」を執筆
- 15) 書評「池上裕子著『織田信長』」『山形新聞』1月20日
- 16) 栃木県立大田原女子高等学校にて模擬講義を行う 2013年1月22日
- 17) 監修「奈良仏教南都六宗の謎」「仏教宗派入門」『一個人 別冊』2013年2月
- 18) 講演「親鸞伝再考」(新潟県立歴史博物館) 2013年3月1日
- 19) 書評「柴田純著『日本幼児史』」『山形新聞』2013年3月17日
- 20) 『親鸞の生き方を学ぶ』会報〈第50号〉p21-29, 山形刑務所篤志面接委員協議会2013年3月1日
- 21) 書評「追塩千尋著『中世南都仏教の展開』」『史学雑誌』第122編第3号, 2013年3月20日

(2) 教育, 地域連携等の活動

学生指導 卒論(8本)・修論(1本)指導

地域連携 山形学企画委員として山形学講座の企画を行った。また, 都市地域学研究所の所長として山辺町と連携して, 「山形偉人再発見プロジェクト」を行い, 第2回「安達峰一郎記念世界平和弁論大会」などを実施。

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

著書2冊など本年度も研究・教育・地域連携において大いに努力した。

松本 雄一

(1) 研究成果

論文

1. 「神殿における儀礼と廃棄－中央アンデス形成期の事例から－」『年報人類学研究』3: 1-41。(2013年3月)
2. Recognizing ritual: the case of Campanayuc Rumi. *Antiquity* 86:746-759. (2012年9月)
3. Early Horizon gold metallurgy from Campanayuc Rumi in the Peruvian South-central Highlands. *Ñawpa Pacha: A Journal of Andean Archaeology* 32(1) : 115-129. (Yuri Cavero 氏との共著) (2012年9月)

4. 2012 Mitomarca; a possible fortification in the Upper Huallaga Basin. *Andean Past* 10: 272-277.
(Jason Nesbitt, Denesy Palacio 氏との共著) (2012年9月)

学会発表

1. 「遠隔地交流と複雑社会の形成—アンデス中央高地の事例から—」2013年1月27日, みんなく公開フォーラム『古代文明の生成過程—マヤとアンデスの比較—』, 於: キャンパス・イノベーションセンター東京。
2. Al sur de Chavín: interacción interregional entre la sierra central y la costa sur del Perú durante el Periodo Formativo. Symposium“La complejidad social del periodo Formativo en los Andes Centrales” at 54 International Congress of Americanists, July 19, University of Vienna, Austria (July 19, 2012) .
3. 「ペルー, カンパナユック・ルミ遺跡における神殿の再利用に関する考察」2012年12月1日 古代アメリカ学会第17回研究大会, 於: 国立民族学博物館。

(2) 教育, 地域連携等の活動

1. 「アンデスの神殿とその魅力」2013年1月20日, みんなくウィークエンドサロン, 於: 国立民族学博物館。
2. 「考古学理論とアンデス形成期研究」2013年9月15日, アンデス文明研究会主催 公開特別講座, 於: 東京外国語大学本郷サテライト。

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

特になし。

三上 喜孝

(1) 研究成果

(論文)

三上喜孝「山形大学小白川図書館所蔵「物部守屋大連之碑」拓本について」『山形大学歴史・地理・人類学論集』14, 2013年3月

三上喜孝「横手市手取清水遺跡出土木簡の再検討」『秋田考古学』56, 2012年12月, 61-65頁。

(学会発表)

三上喜孝「出羽から考える越後, 越後から考える出羽 —再考・国司分割統治システム」第40回古代史サマーセミナー全体会, 2012年8月24日, 於新潟市万代市民会館

三上喜孝「古代地方社会と文字文化」歴博国際シンポジウム「古代日本と古代朝鮮の文字文化交流」2012年12月15日(土), 於イイノホール

三上喜孝「古代日本における繊維製品の生産と流通 —文字資料を手がかりに」山梨県考古学協会2012年度研究集会「紡織の考古学—紡ぐ・織る・縫う—」2013年1月26日(土)~27日(日)

於山梨県笛吹市・帝京大学山梨文化財研究所

(その他)

三上喜孝「書評と紹介・亀谷弘明著『古代木簡と地域社会の研究』」『日本歴史』774, 2012年11月, 112-114頁。

(2) 教育, 地域連携等の活動

2012年度における授業 (担当授業名)

基盤教育・教養科目「論争する歴史学」「貨幣からみた日本の歴史」(各2単位)「グローバル社会に生きる君達へ」(オムニバス)

専門科目「歴史学基礎」(オムニバス)「日本史概論(一)」「日本史講義(一)」「日本史講読(一)」「文化財調査実習」(各2単位)「日本史演習(一)」(4単位)

「博物館実習」(オムニバス)

大学院「日本古代史特論Ⅱ」「日本古代史特別演習」(各2単位)

卒業論文指導

「板東平氏の奥羽進出に関する考察」「古代日本における天皇と地域社会—『風土記』の検討を中心に—」「古代出羽国と中央貴族」「奈良時代における藤原氏の権力形成—藤原麻呂を中心に—」「律令国家における官吏登用制度—なぜ科挙が日本に浸透しなかったのか」

地域連携活動(審議会, 講演会, ボランティア等)の紹介

- ・朝日カルチャーセンター新宿「古代日本と古代朝鮮の文字文化交流」第5回「古代地方社会に広がる漢字文化」(2012年6月30日)
- ・秋田県立湯沢高等学校出張講義「足もとはワンダーランド～埋もれた資料から歴史をさぐる～」2012年9月12日
- ・平成24年度山形大学小白川図書館公開講座「石に刻まれた日本の歴史」第1回「物部守屋はなぜ顕彰されたか—山形市千歳山の「物部守屋大連之碑」拓本」「芭蕉がみた「つぼのいしぶみ—「多賀城碑」拓本」10月6日(土), 第2回「東アジアの中の広開土王碑 —「高句麗広開土王碑」拓本」, ならびに特別展示「石に刻まれた日本の歴史 ～山形大学小白川図書館所蔵・石碑拓本の世界～」担当(10月15日(月)～20日(土))
- ・「山形文化遺産防災ネットワーク」による, 東日本大震災の被災資料クリーニング作業(毎週月曜日, 於山形大学)。

(3) 2012年度の研究・教育活動についてのコメント

研究面では, 韓国に出土文字資料調査のために数度出張し, 日韓の国際シンポジウム(国立歴史民俗博物館主催)において研究発表をした。また, 本学図書館で発見された「物部守屋大連之碑」(山形市千歳山所在)の拓本の調査研究を行い, 調査成果を, 展示, 公開講座, 調査報告という形で, 広く公開した。

教育面では, 講読や演習を通じて文献史料の読解に重点を置いたほか, 実習(奈良・京都方面)等を通じて生の歴史資料を見る機会を提供した。また, 卒業論文の指導にも力を入れた。

昨年度以来, ボランティア活動として, 津波で被災した歴史資料のクリーニング作業を, 毎週月曜日の夕方に本学でおこなっている。

元木 幸一

(1) 研究成果

(著書)

『笑うフェルメールと微笑むモナ・リザ―名画に潜む「笑い」の謎』小学館, 2012年10月

(論文)

「酒宴の表象―ゼーバルト・ベーハム『ケルミス大版画』の分析―」『世界の感覚と生の気分』

(栗原隆編), ナカニシヤ出版, 2012年4月, 202-222頁。

(2) 教育, 地域連携等の活動

(授業)

基盤教育基幹科目「美術における男女の共生／競生／狂生」教養科目「西洋美術への招待(芸術)」

人文学部専門科目「芸術文化基礎」「芸術文化特殊講義」「美術史演習」「美学・芸術学演習」「芸術文化実習」

大学院科目「美学・芸術学特論」

(卒論指導)

「グスタフ・クリムト作《人生は戦いなり(黄金の騎士)》主題解釈の再考」「藤田嗣治〈戦闘図〉の変遷―《血戦ガダルカナル》の位置づけ―」「歌川国芳研究 国芳にとっての刺青について」

(講演等)

「フェルメールの笑顔」(山形大学公開講座「イメージの詩学―ヨーロッパを解く」) 2012年6月
「西洋美術の見方, 楽しみ方」(山形美術館, 東北芸術工科大学との連携による大学コンソーシアム企画で「美術品・文化財を楽しむ」) 2012年6月

「笑顔のヨーロッパ絵画とフェルメール」(かほく町民大学ひなカレッジ) 2012年9月

「絵を見て笑う」(小川とびきり会) 2012年12月

「覗きの美学: 浮世絵春画の分析」(小川とびきり会) 2013年3月

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

研究では, 前年から執筆していた著書『笑うフェルメールと微笑むモナ・リザ―名画に潜む「笑い」の謎』(小学館ビジュアル新書)を刊行することができた。執筆にはとても苦勞したので, 喜びはひとしおであった。

宗教改革期ニュルンベルクの農民祝祭版画の研究で獲得した科研費のため, 8~9月にドイツ諸都市を調査した。特にニュルンベルクにおける「初期デューラー展」を見ることができ充実した調査旅行となった。

教育面では積極的な学生が多かったので, 授業が楽しかった。

卒論指導は, クリムト, 藤田, 国芳とバラバラなテーマだったが, 3人とも作品を調査するため, ウィーン, 東京などを訪れ, 活動的な研究だったことに好感を持つ。

森岡 卓司

(1) 研究成果

[研究発表]

1. 森岡卓司「沈黙を聞くこと」2012年度日本近代文学会秋季大会 パネル「震災をめぐるさまざまな言説的亀裂—東北・マイノリティ・文学—」平成24年10月28日 ノートルダム清心女子大学

[講演, 報告]

1. 森岡卓司「浜田広介の疎開 —未公開資料『食事の記』を巡って—」平成24・25・26・27年度科学研究費補助金 基盤研究(C)「1940年代日本文学における地域性の生成—東北地方における疎開・移住を視座に」(研究代表者, 課題番号24520201) 研究報告会 平成24年7月29日 東北大学文学部
2. 森岡卓司「浜田広介の詩と小説」第8回ひろすけ童話学会研究発表会 平成24年8月19日 浜田広介記念館ひろすけホール・研修室

[記事]

1. 森岡卓司「やまがた再発見」115. 浜田広介 上 『山形新聞』 平成24年9月9日
2. 森岡卓司「やまがた再発見」116. 浜田広介 下 『山形新聞』 平成24年9月16日

[書評, その他]

1. 森岡卓司「秋季大会印象記(二日目午前 研究発表)」日本近代文学会『会報』平成24年4月1日 pp20~21
2. 森岡卓司「安達千夏『千のキス』」『山形新聞』平成24年12月23日

(2) 教育, 地域連携等の活動

[出張講義]

宮城県仙台南高等学校 (平成24年7月6日)

山形県立新庄北高等学校 (研究室訪問と発表会, 平成24年10月19日)

[公開講座]

1. 森岡卓司「文学史の中の井上ひさし」山形大学公開講座 シンポジウム「井上ひさしの宇宙」平成24年4月7日 シベールアリーナ

[教員免許状更新講習]

福山泰男, 中澤信幸, 森岡卓司「国語教材の研究」平成24年度教員免許状更新講習(中学校教諭(国語)・高等学校教諭(国語)対象) 平成24年8月6日~8月8日 山形大学人文学部

[論文指導]

卒業論文3名

[授業担当]

「初期村上春樹の世界(文学)」ほか基盤教育科目2, 「日本文学演習」ほか専門教育科目6, 「日本近現代文化論特別演習」ほか大学院担当科目2。

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

学会活動としては日本近代文学会東北支部運営委員（大会企画担当）、日本比較文学会東北支部運営委員（会報担当）、日本文芸研究会全国委員（大会企画担当）。

また、『東北近代文学事典』の編集委員として事典編集に携わった（平成25年刊行）。

教育活動としては、平成23年度より実施している日本近代文学東北インカレゼミ（平成22年は山形大学単独の自主ゼミとして実施）を、本年度は宮城県で行い、学生が企画運営を担当する補助を行った。福島大、東北大、東京大からの参加があった。

地域連携等の活動として、山形大学が行う朗読コンテストの審査員を、平成24年度もまた継続して務めている。

山崎 彰

(1) 研究成果

・書評

「松尾展成『ザクセン封建地代償却史研究』」『歴史と経済』第217号、2012年10月

「桐生裕子『近代ボヘミア農村と市民社会』」『東欧史研究』第35号、2013年3月

・発表

「ボヘミアの農業結社、ドイツの農業結社」（東欧史研究会・西洋近現代史研究会2012年12月15日、立正大学）

(2) 教育、地域連携等の活動

・基盤教育

「ヨーロッパ史における共生と環境」（基幹科目）、「近代ヨーロッパ国家の多様なかたち」（教養科目）

・専門教育

「歴史学基礎」「西洋史概論（二）」「西洋史講義（二）」「西洋史演習（二）」「西洋史講読（二）」

「卒業論文」。以上の他に松本邦彦准教授とともに「地域づくり特別演習（二）」を企画、実施し、学生たちの成果を冊子『NPO 体験記』にまとめた。

・大学院教育

「ドイツ史特論」「ドイツ史特別演習」において、大戦間期のテキストを読むとともに、20世紀現代史を講じた。

・社会連携の分野では、山形ドキュメンタリーフィルムライブラリーのロシア、東欧、東ドイツ関係の収蔵作品の調査を行い、編著『映像の中の冷戦後世界』出版（2013年10月刊行）の準備を行った。

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

・科研費（基盤研究C）「創設期マルク経済協会に関する実証的研究」（代表・山崎彰）の最終年度であり、成果報告書をまとめた。

山田 浩久

(1) 研究成果

著作

『北東日本の地域経済』, 共著, 八朔社, 2012年5月

『地方都市の持続可能な発展を目指して』, 共編著, 山形大学出版会, 2012年1月

『山形大学 YU-GP 現地学習を中心にした災害復興学の実践—「地誌学」における取り組み—』,
山形大学人文学部叢書, 2013年3月

学術論文

「地域政策学的観点から見た総合計画の意義と課題」, 単著, 山形大学大学院社会文化システム
研究科紀要, 9,83-96.

学会発表

「地方都市の総合計画における意義と問題点」, 単独, 2012年5月, 東北地理学会

「東日本大震災によって生じた土地評価の課題—宮城県臨海市町村を対象にして—」, 共同,
2012年10月, 東北地理学会

「近年の地価変動現象の地域的差異」, 単独, 2012年11月, 人文地理学会

「現地学習を中心にした災害復興学の実践」, 単独, 2013年3月, 日本地理学会

報告書

「長井市の第5次総合計画策定に関する研究」, 山形大学人文学部, 2013年3月

(2) 教育, 地域連携等の活動

教育

基盤教育: 地域の共生 (共生を考える)

学部教育: 地域構造論, 地誌学, 環境地理学演習, 地域構造論演習, 環境地理学調査実習, 都市
地理学調査実習, 共生人間学 (一), 人間文化入門総合講義

大学院: 経済地理学特論Ⅱ, 経済地理学特別演習

地域連携

- 国土交通省国土地理院 地理空間情報産学官地域連携協議会委員
- 山形県総合政策審議会特別委員
- 山形県広域調整会議委員
- 長井市市民講座講師
- 長井市職員研修講師
- 高校への学部・学科説明会および模擬講義 模擬講義3校, 学部・学科説明会 校
- 山形大学東北創生研究所 研究員
- 山形大学工学部観光 MOT 検討委員会

(3) 研究・教育活動に関するコメント

地域連携, 学生教育に多くの時間を費やした。その成果は上記(1)の著作として表した。特に,
長井市に対する政策提言に関しては, 同市から調査を委託され, 自らの研究分野にも深く関わる

調査・分析を行うことができ、実り多い1年であった。

山根 純佳

【論文, 書評, 事典執筆, 調査報告】

山根純佳, 2012, 「ケア労働としての食事づくり」『現代と保育』第84号, pp.57-67.

山根純佳, 2012, 「書評 後藤澄江著『ケア労働の配分と協働—高齢者介護と育児の福祉社会学』東京大学出版会『日本労働研究雑誌』第630号, pp.108-110.

山根純佳「リベラル・フェミニズム」『現代社会学事典』2012 弘文堂

渡辺顕一郎・山根純佳, 2012 「震災後の子育て家庭の生活実態に関する調査報告書—福島県および山形県内への避難者を中心に」

山根純佳, 2013, 「原発事故による「母子避難」問題とその支援——山形県における避難者調査のデータから」『山形大学人文学部研究年報』第10号, pp. 37-51.

山根純佳, 2013, 「ケアと労働」木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江編著『よくわかるジェンダー・スタディーズ』ミネルヴァ書房, pp.182-183.

山根純佳「被災者とは誰か」『UP』2013年3月号, 東京大学出版会。

【学会発表】

山根純佳「ケア労働の評価と両立支援策の論理—妊娠・出産・育児における「依存」から考える」国際ジェンダー学会2012年度大会 立教大学 2012年9月1日

山根純佳「山形県における母子避難者の生活の再編と支援」テーマセッション震災問題を考える(2) 再建への課題と展望」第85回に本社会学会大会 札幌学院大学 2012年11月3日

【教育, 地域連携等の活動】

平成24年 山形県社会福祉協議会 山形県福祉人材センター運営委員

平成24年 東日本大震災復興支援山形県会議委員

【研究・教育活動に対するコメント】

社会調査実習では, 東日本大震災避難者の生活と支援をテーマに, 学生とフィールドワーク調査をおこない, 調査技法の伝授とともに, NPO や地域での活動について学生の関心を広げる教育をおこなった。

Ryan, Steven

(1) 研究成果

[論文]

2012.12 Using Voice of America Audio Downloads for Specific University Reading and Listening Courses. The Language Teacher. Vol. 36, No. 6, pp. 9-10. Tokyo: JALT.

2012.2. Understanding the Merits and Demerits of High and Low Context Oriented Communication Cultures in Intercultural Business Conflict; the case of Fukushima and Japanese communication schema.

Bulletin of Yamagata University (Humanities) . Vol. 17, No. 3, pp. 37-47.

[学会発表]

2012.12 Two Explorers of the American West: Lewis and Clark, The International Association of Japanese Studies (IAJS) . Yamagata, Japan.

2012.1 Presentation, The Lewis and Clark Expedition of 1804-06: The effect of American cultural values, Japan Association of Language Teachers (JALT) . Yamagata Chapter.

(2) 教育, 地域連携等の活動

英語コミュニケーション上級, 英作文 (上級), 英語(C), 英語(R), 異文化間コミュニケーション

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

My research interest pertains to cross-cultural (mis) communication and cross-cultural psychology with emphasis on business contexts.

渡辺 文生

(1) 研究成果

《学会, 研究会などの口頭発表》

「上級日本語学習者に対する論説文の作文指導について」CAJLE 2012 Annual Conference, Banff, Canada, 2012.8.2.

「SNS ツールを用いた学習ストラテジーの有効性について— SNS 上での情報のやりとりを中心に—」第39回日本語教育方法研究会, 金沢大学, 2012.9.15.

「文末表現に関する文章と談話の違いについて」第5回談話分析コロキウム, 山形テルサ, 2012.12.23.

「ストーリー・テリングによる対話から探る言語運用能力の分析: 日本語学習者/日本語母語話者データを比較して」社会言語科学会第31回大会, 統計数理研究所, 2013.3.17.

「日本語学習者による物語作文の使用語彙をもとに熟達度を探る—韓国語母語話者の場合—」AATJ 2013 Annual Spring Conference, San Diego, USA, 2013.3.21.

(2) 教育, 地域貢献等の活動

担当授業は, 日本語学概論 (一)・日本語学特殊講義・日本語学講読・日本語学演習・日本語 (二)・共生人間学 (二)《以上学部専門科目》, 日本語意味論特論・日本語意味論特演《以上大学院科目》, ことばの分析 (言語学)・日本語5「書く」・遠い方言, 近い方言《以上基盤教育科目》。

地域貢献等の活動としては, 大学コンソーシアムやまがた「やまがた夜話」(2012年10月17日)で講師を担当したほか, 山形南高校(2012年9月13日)において出張講義を行った。

(3) 当該年度の研究, 教育活動に関するコメント

研究活動に関しては, 研究分担者として2件の科学研究費プロジェクトに参加した。また,

2012年12月23日には、山形テルサにおいて第5回談話分析コロキウムを主催し、ミネソタ大学・群馬大学・筑波大学・東北大学・東北文教大学から研究者・大学院生を招いて研究発表会を行った。

学生の指導については、日本語学コース5名の卒業論文を指導した。

渡辺 将尚

(1) 研究成果

学会発表：「文化産業」としてのラジオドラマ——ジークフリート・レンツの場合（平成24年11月，日本比較文学会東北支部大会，於：山形テルサ）

(3) 研究活動へのコメント

上記学会発表では、ジークフリート・レンツが、テレビが普及し始めた1960年代に入ってもまだラジオドラマを書き続けた理由について、アドルノらの「文化産業」という概念を参考に考察した。具体的には、レンツが「文化産業」としてのラジオの弊害を意識しつつも、あえてそれを確信犯的に利用することで、自らの理想とする文学を実践していたという見解を提示した。本発表によって、平成21年度から23年度に科学研究費補助金を得て取り組んだ研究を、さらに発展的にまとめることができた。

渡邊 洋一

(1) 研究成果

- ・田中伸之輔※・渡邊洋一「メカ音痴意識の高さと映像マニュアルの使いやすさの関連」日本心理学会第76回大会. 2012.9.13. 専修大学. (※現筑波大学大学院所属. 卒業論文に基づく研究を連名で発表).

(2) 教育，地域連携等の活動

・教育活動

基盤教育基幹科目「人の知性と感性を探る：認知心理学入門（人間を考える）」、学部専門科目「心理学実験」「心理学特殊実験」「心理学講義（一）」「認知心理学演習」、卒業論文指導（9名）

・地域連携等の活動（高大連携）

向山高校アカデミックインターンシップ（福野光輝先生とともに5名の生徒を指導）

新庄北高校研究室訪問（1名の生徒を指導）

寒河江高校大学訪問模擬授業（生徒62名）

・地域連携等の活動（地域貢献）

日本自動車連盟（JAF）山形支部交通安全実行委員会委員長

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

「人文学部附属ナスカ研究所」開設に関し2012年に3回バレーを訪問した。

【法経政策学科】

赤倉 泉

(1) 研究成果

特になし

(2) 教育, 地域連携等の活動

【教育】

教養教育科目: 中国語

専門教育科目: アジア政治論, アジア政治論演習

【地域連携等】

出張講義 (栃木県佐野東高校)

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面においては, 前年度に引き続き科学研究費補助金を活用し, 毛沢東時代の政治および中国の民主化運動をテーマとした研究を進めた。

教育面では, 学生に興味をもたせるために時事問題などを広く取り入れ, 視聴覚教材を利用するなど工夫した。

阿部 未央

(1) 研究成果

- (論文)「不合理な労働条件の禁止—正規・非正規労働者間の待遇格差」ジュリスト1448号 58-63頁 (有斐閣, 2012年12月)
- (判例評釈)「添乗員と事業場外労働のみなし制—阪急トラベルサポート (派遣添乗員・第3) 事件・東京地判平成22・9・29労判1015号 5 頁—」日本労働法学会誌第119号127-135頁 (日本労働法学会編, 2012年 5月)
- [報告]「改正労働契約法20条 —不合理な労働条件の禁止」(東北大学社会法研究会2012年 9月)

(2) 教育・地域連携等の活動

[教育] 労働法, 労働法演習, 社会保障法, 法経政策専門基礎演習, 少子化を考える (教養セミナー), 公務員講座

[地域連携]

- 山形地方最低賃金審議会 公益代表委員 (2012年 7月~2013年 3月)
- 山形県建築士審査会委員 (2012年 8月~2013年 3月)

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では, 目標の1つであったジュリストに論文を掲載する機会に恵まれた。「イギリス・

オランダにおけるパートタイム労働法制」(科研の若手研究B)の初年度であり、日本およびイギリスのパートタイム労働に関する研究を進めた。教育面では、社会保障法を2年次開講科目に変更し受講者が150名を超えたため、内容を大幅に改訂した。労働法演習で毎年行っている4大学合同ゼミでは、山形大学が初めて開催校を務め、ゼミ生とともに企画運営を行い例年以上に思い出深い合宿となった。

和泉田 保一

(1) 研究成果

・判例評釈

「地方公共団体が締結した損失補償契約と財政援助制限法」民商法雑誌第146巻第3号333～340頁

(2) 教育，地域連携等の活動

・担当授業

行政法Ⅰ，行政法Ⅱ，行政法演習，総合講座Ⅰ（「条例による地域政策」）・Ⅱ（「公法」2コマ），人文学部公務員対策講座（集団討論2コマを担当）

・地域連携活動

[審議会等委員]

山形県情報公開・個人情報保護審査会委員（継続）

山形県医療審議会委員（継続）

山形大学医学部倫理委員会委員（7月～）

[外部研修講師]

長井市役所職員研修「政策法務」（4月～）

北陸地方整備局職員研修「法律（Ⅱ）」（9月）

[講演]

都市・地域学研究所公開講座「山形の魅力再発見10」『英国都市農村計画制度の紹介』（10月）

富山大学経済学部「深める教養シリーズ②」『市民生活と行政法』（2月）

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

ゼミ合宿を栃木県宇都宮市及び福島県会津若松市で行い、日光太郎杉事件の現場を実地調査し、また、原発事故での風評被害対策に関わる会津若松市当局の活動について実地で調査した。

伊藤 嘉浩

(1) 平成24年度の研究成果

[単書]『新規事業開発のマネジメント』白桃書房，2013年2月。

[論文] なし

[学会発表]

① 「垂直立ち上げ戦略の研究：パナソニックのケース」日本経営学会全国大会（日本大学商学

部), 2012年9月。

- ② 「新規事業開発における資源獲得正当化のための企業間お墨付き：キヤノンの事例」日本経営学会関東部会（淑徳大学），2013年1月。

(2) 平成24年度の教育，地域連携等の活動

〔教育〕 マーケティング前期，マーケティング後期，ベンチャービジネス論，マーケティング演習，専門基礎演習，教養セミナー（経営戦略基礎）。

〔出張講義〕 県立山形中央高校，2012年12月。

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

長年の研究成果についてこの年度を通じて，編集し，加筆し，書き直して，研究書『新規事業開発のマネジメント』として出版することが出来た。本書については，日本ベンチャー学会誌の2013年9月号において，経営戦略論およびイノベーションマネジメント論の日本の大家である法政大学大学院の榊原清則教授により，高い評価の書評を書いて頂いた。

また，この年度において新たな研究を積極的に行い，合計45名の企業の方にインタビュー調査を行い，4本の論文原稿を作成した。この成果については，平成25年度および26年度頃に学会誌等に発表できる見込みである。

教育においても講義内容について最新の理論や事例，研究成果を取り込んで，改善を行った。

岩田 浩太郎

(1) 研究活動

〔科研費〕

- ・科学研究費補助金・基盤研究(C)「幕末・明治初年の農業構造と地域社会—羽州村山郡における再検討—」(研究代表者)
- ・山形大学人文学部研究プロジェクト「被災蔵古文書資料の保存整理と調査研究」(研究代表者)
研究分担者：菊地仁山形大学人文学部教授

(2) 教育，地域連携等の活動

〔担当授業科目〕

- ・基盤教育科目：基幹科目「歴史にみる共生」(共生を考える)，「山形と紅花の歴史」(地域学)
- ・専門教育科目：日本経済史，地域経済史，日本経済史演習，総合講座Ⅲ(経済経営)
- ・教員免許状更新講習：「地域史の視点と方法」

〔委員会活動〕

- ・学部：学科人事調整委員
- ・全学：山形大学研究活動に関する行動規範特別委員会委員

〔講話・シンポジウム・報告〕

- ・NHKラジオ深夜便(NHK第1放送・NHKFM放送)「歴史に親しむ 紅花の歴史」インタビュー講話(聞き手：川野一字アンカー)(2012年7月)

- 山形大学都市・地域学研究所主催：「最上義光シンポジウム」コメンテーター（2012年7月，於山形大学人文学部）
- 山形県村山総合支庁主催：歴史的建造物の保存・活用に関する検討委員会「柏倉家文書の学術的価値について」報告（2012年7月，於山形県東村山郡中山町総合体育館会議室）
- 村田町大沼正七家遺族会：「ヤマシヨウ大沼正七家の歴史」「ヤマシヨウ大沼正七家文書について」報告（2012年8月，於宮城県柴田郡村田町願勝寺同朋会館）
- NPO 法人柏倉家文化村主催：山形大学人文学部日本経済史ゼミナール共同研究発表会「柏倉九左衛門家・柏倉惣右衛門家の金融的側面に関する研究」（2013年3月，於柏倉九左衛門家長屋門上座敷）
- やまがた広域観光協議会・山形県紅花生産組合連合会主催／山形県村山総合支庁観光振興室企画：観光資源としての紅花の活用に関する研修会「歴史を通じて紅花を語る，紅花を通じて歴史を語る視点」報告及びコーディネーター（2013年3月，於山形県西村山郡河北町サハトベに花）

〔社会活動〕

- NPO 法人「柏倉家文化村」顧問
- 山形市社会教育委員
- 奥羽史料調査会世話人（宮城県柴田郡村田町大沼正七家文書整理・目録作成・調査研究など）
- 財団法人三浦新七博士記念会・三浦記念賞選考審査会審査員（2012年4月～）
- 文化庁補助事業・宮城県柴田郡村田町文化遺産活用地域活性化事業調査研究員（2012年5月～）
- 山形県村山総合支庁・歴史的建造物の保存・活用に関する検討委員会委員（2012年6月～，）
- 柏倉九左衛門家・柏倉惣右衛門家所蔵古文書資料の整理保存・目録作成・調査依頼への対応
- 東日本大震災で被災した山形市の旧家蔵の古文書文化財の保全活動
- 新潟県新潟市の旧家からの古文書調査依頼への対応
- J R 東日本・大人の休日倶楽部旅行企画「紅花商人の歴史と紅花摘み体験の2日間」企画協力・講演・現地解説（2012年7月，於「紅の蔵」「柏倉邸」その他）
- N P O 法人柏倉家文化村・特別展示「絵巻と家財でみるむかしのくらし」企画協力・解説作成（2012年7月～9月）
- ポストン大学研究員から依頼された紅花の歴史に関する質問への対応

〔その他〕

- 山形大学附属博物館の古文書資料収集への協力（仲介など）・助言

(3) 平成24年度の研究・教育活動等に関するコメント

人文学部2号館耐震大改修工事のため2012年3月末から一年間研究室を3号館に移転したため十分なデスクワークができなかったが，科研費による調査活動は各地で実施できた。また，東日本大震災で被災した宮城県や山形県の旧家蔵の古文書資料の保存整理・調査に迫られる一年となり，研究時間の8割を保存整理・調査が占めた。人文学部研究プロジェクトにより同活動への支援をいただいた。奥羽史料調査会世話人として10年来の大沼正七家文書の目録採りも組織し継続

した。

教育活動では、基盤教育基幹科目を新規に担当し現代的な課題をふまえて「生存権の形成史」をテーマとする講義を作成した。また、日本経済史講義の大幅な改訂をおこなった。オランダのライデン大学から留学生を受け入れ指導した。

地域社会連携では、山形県や山形市、宮城県柴田郡村田町などから様々な依頼と委員委嘱を受け、多忙となった。文化庁事業に関わり、古文書保存調査・史料編纂の経験が少ない自治体への指導助言にも努めた。NHKやJR東日本からの依頼に対応し放送や現地解説を担当した。2014年度にディスティネーション・キャンペーンの対象県となる山形県の依頼を受けて、観光関係者研修会の企画に協力しまとめ役を務めた。NPO法人柏倉家文化村顧問として企画展示に協力したり、ボランティアを組織しNPO活動に参加した。

殷 勇

(1) 研究成果

著書（日本語）：

- ・東日本大震災の地域経済への影響：企業経営・雇用・金融，山形大学人文学部叢書2 2013年3月

国際ジャーナル論文：

1. J.Sun, M. Matsui and Y.Yin “Supplier risk management: an economic model of P-chart considered due-date and quality risks”, International Journal of Production Economics, Vol.139, No.1, pp.58-64, 2012.
2. Y.Yu, J.Gong, J.Tang, Y.Yin and I.Kaku “How to carry out assembly line-cell conversion? A discussion based on factor analysis of system performance improvements”, International Journal of Production Research, Vol.50, No.18, pp.5259-5280, 2012.
3. C.G.Liu, W.J.Li, J.Lian and Y.Yin “Reconfiguration of assembly systems: from conveyor assembly line to serus”, Journal of Manufacturing Systems, Vol.31, No.3, pp.312-325, 2012.
4. K.E.Stecke, Y.Yin, I.Kaku and Y.Murase “Seru: The organizational extension of JIT for a super-talent factory”, International Journal of Strategic Decision Sciences, Vol.3, No.1, pp.105-118, 2012.

(2) 教育・地域連携等の活動

教育：

基盤教育：「経済経営の数理」，「数理社会学」

専門教育：「経営情報」，「生産管理」

大学院：「経営情報特論」

小笠原 奈菜

(1) 研究成果

〔論文〕

「情報提供義務の対象と法的効果」

『松本恒雄先生還暦記念 民事法の現代的課題』699頁

「契約締結過程における説明義務と法的性質（最判平成23・4・22）」

現代消費者法 第15号82頁

「当事者が望まなかった契約の適正化と情報提供義務—契約関係維持を中心として(3)」

山形大学法政論叢 第54・55合併号1頁

〔口頭発表〕

「労働契約上の安全配慮義務違反による損害と弁護士費用」

東北大学民法研究会，2012年11月8日，於 東北大学

「労働契約締結過程における情報提供義務」

国際取引法研究会，2012年12月15日，於 早稲田大学

(2) 教育，地域連携等の活動

〔担当授業科目〕

- ・基盤教育科目：判例を読もう（教養セミナー），生活の中の民法（講義）
- ・専門教育科目：契約法入門，債権各論，民法演習
（オムニバス方式）総合講座Ⅱ（法律），公務員試験対策セミナー

〔地域連携〕

山形県個人情報保護運営審議会委員

山形県消費生活審議会委員

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

科学研究費補助金（若手研究(B)）の三年目として，成果の公表を3本行ない，さらに，口頭報告を2本行なうことができた。

教育について，演習担当学生が増加し，1人1人に対してきめ細かい対応をすることへの限界を感じた。講義については，分野を絞って基礎的な内容を増やし，段階的に専門的な内容へと移行する方法を採った結果，例年よりも学生の理解度が高まったようである。

金子 優子

(1) 研究成果

論文

『Contribution of Citizens'Activities to Community Development in Japan- Focusing on the activities of local community associations-』，山形大学紀要（社会科学）43巻 2号，2013年2月

編著書

『Japan's Disaster Governance How was the 3.11 Crisis Managed?』，Springer，2013年1月（共著者：鈴木絲子）

『Public Administration Handbook of Japan (Digitized First Edition)』，BookWay Global <https://bookway-global.com/> 2012年7月11日（共編著者：鈴木絲子，三好皓一）

国際会議での発表

『Contribution of Citizens' Activity to Community Development in Japan』, 2012 Conference of European Group of Public Administration, 2012年9月6日

『Japan's Disaster Governance Case Study: Managing 3.11 Mega Earthquake Emergency with Emphasis on Government Communication Issues in Fukushima Nuclear Crisis』, American Society for Public Administration 2013 Annual Conference, 2013年3月16日

(2) 教育, 地域連携等の活動

担当科目: 行政学, 公共政策論, 日本国憲法, 行政学演習, スタートアップセミナー

審議会委員

東根市情報公開・個人情報審査会委員

村山公立病院情報公開・個人情報審査会委員

山形市行財政改革推進懇話会委員

研修講師

山形市 平成24年度行政法研修

山形市 平成24年度政策法務研修

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

研究活動については、外部研究資金（平成22-24年度科学研究費補助金 基盤研究C 研究課題番号：22530259）を得た「地域活性化のための市民活動量の計測とその寄与に関する研究」の最終年度として研究の中間的なとりまとめ結果を国際学会で報告し有益な助言を得るとともに、最終報告書を取りまとめた。教育活動については、プレゼンテーションソフトを利用することにより分かりやすい講義となるように努めた。また、講義への学生の能動的参加を促すように、対話型の講義に留意した。

川村 一義

【研究】

- 「国会研究の現状と国会論の再検討」『東北法学』第41号, 1-61頁（単著）

【教育・地域連携等】

- 東北大学全学教育（教養）科目「法学」の分担。
- 震災後の日本に関する研究会「国民感情と復興政策の部会」（主催：サントリー文化財団, 2012年7月25-26日, 東北大学片平キャンパス）の運営補助。

【雑感】

平成24年度は、東北大学大学院法学研究科で助教を務め、主に専門職大学院（法科・公共政策）の授業補助を担当した。緊張感のみなざる濃密な授業と、それに臨む教員・学生の大変な準備を間近に観たことは、現在の職責を果たす上で貴重な経験となっている。個性的な教員もおり、大学運営業務の初歩的経験を積めたことも幸いだった。

その間隙を縫い、博士論文から派生した論文をまとめることができ、安堵している。

北川 忠明

(1) 研究成果

論文：「ローカリズムとコミュニティ・ガバナンス」

北川忠明・山田浩久編著『地方都市の持続可能な発展を目指して』（山形大学出版会）所収

(2) 教育，地域連携等の活動

担当授業：「政治と人間」（基盤教育），「政治理論」（学部），「政治理論演習」（学部），「現代政治論特論」（大学院），「現代政治論特演」（大学院）

地域連携：長井市振興審議会会長

山形県明るい選挙推進協議会委員

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

本年度は、長井市との連携協力協定に基づく「まちづくり」に関する研究を間とまとめることができた。また、レオン・ブルジョワの連帯主義研究はある程度進めることができた。

教育については、自由主義と民主主義をめぐる政治哲学的テーマをできるだけ分かりやすく伝えるよう工夫をしているが、学生の理論的思考力が年々落ちているように思われるので、さらなる工夫を心がけたい。

國方 敬司

(1) 研究成果

単著「『大英百科事典』にみる19世紀はじめのイギリス農業」『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』第9号，2012年10月，pp.13-49.

(2) 教育，地域連携等の活動

・【教育】

a) 山形大学：環境と経済，西洋経済史，環境と経済・西洋経済史演習，基礎演習

b) 東北文教大学短期大学部：くらしと経済

・【学会役員】 比較家族史学会理事，社会経済史学会評議員

・【講演等】

a) 「山形の活性化のために労使がなすべきこと」，第1回山形県労使セミナー（大手門パルズ）
2012年11月6日（火）

b) 「まだまだ学ぶべきイギリスの福祉～私の経験から～」，東南・北村山地方婦人大会（タント
クルセンター）2012年7月29日（日）など

・【審議会委員等】 山形新聞報道審査会委員，三浦新七博士記念会評議員，「子育てするなら山形県」推進協議会委員，山形市上下水道事業経営等懇話会委員など

(3) 研究・教育活動に関するコメント

イギリス農業革命についての研究は順調に進んでいる。2013年の社会経済史学会第82回全国大会におけるパネルディスカッション「イギリス農業革命の諸相：18世紀後半～19世紀中葉のイギリス農業」を組織しているために、研究仲間と研究会を開くなどして、研究内容の深化を図った。

コーエンズ 久美子

(1) 研究成果

[論説]

手形の商事留置権と弁済充当 —最高裁平成23年12月15日判決を素材として— 山形大学法政論叢56号132頁 (平成25年3月)

[口頭発表]

「手形の商事留置権と民事再生法」中央大学金融取引に関する比較法的研究 平成24年7月28日
「受託者の信託違反とその効果・救済」財団法人トラスト60研究会 平成24年11月12日
「手形の商事留置権と弁済充当」東北大商法研究会 平成24年12月15日

(2) 教育、地域連携等の活動

[担当授業]

スタートアップセミナー、商法I、商法II、商法演習I、国際取引法 (理工学研究科)

[地域連携活動]

山形地方裁判所委員会委員、山形県消費生活審議会委員

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

破産手続、民事再生手続における手形の商事留置権の効力について、検討した。

この問題は、証券決済システムを利用している投資信託についても生じており、今後引き続き検討していきたい。

また、教育に関しては、とりわけスタートアップセミナー、演習において学生が自分の見解を積極的かつ理論的に説明できるよう、口頭発表の仕方、その準備に関する指導を重点的に行った。

是川 晴彦

1) 研究成果

[著書]

- ・『地方都市の持続可能な発展を目指して』(北川忠明, 山田浩久編著, 山形大学出版会), 第2章「経済学的に考える」を執筆。

[科研費研究]

- ・「安曇野市のデマンド交通システムの実態と考察」, 『山形大学紀要 (社会科学)』, 第43巻, 第2号

[受託研究]

- ・『長井市の第五次総合計画策定に関する研究』(平成24年度山形大学人文学部受託研究 研究

成果報告書), 研究テーマ1「総合計画に求められる機能と方向性」を執筆。

(2) 教育, 地域連携などの活動

[担当授業]

- 学部: ミクロ経済学, 応用ミクロ経済学, 公共経済学, ミクロ経済学演習
- 大学院: 公共経済学特論, 公共経済学特別演習

[地域貢献活動など]

- 山形県産業構造審議会委員
- 山形県指定管理者審査委員会の外部委員
- ながい市民未来塾における講師
- まちづくり人材連携強化事業(村山市)
- 天童まちづくり・市街地活性化懇談会委員
- 山形県まちづくりミーティングにおける報告
- 出張講義(喜多方高校)

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

中心市街地活性化に関する研究(科研費研究)では, 福知山市, 宝塚市などの事態調査やヒアリングを行った。その結果, 前年度に引き続いて中心市街地活性化政策の課題に関する有益な知識や情報を得ることができたほか, テナント料決定の理論的考察を進めることができた。また, 中心市街地活性化に関する研究の成果を紹介する書籍を出版する機会を得た。課税理論の研究では, 不完全競争市場を対象とした分析を継続して行った。

教育面では, 配布資料の更新を行い, 要点が整理しやすい資料の作成につとめた。特に, 図や表の修正に力を注いだ。また, 前年度に引き続き, 配布資料に記載する練習問題の数を増やし, 受講生が講義内容の復習をしやすいようにした。大学院の講義では, 受講生の基礎知識や研究目標を考慮し, 教育効果を高めることにつとめた。

今野 健一

(1) 研究成果

- 論文: 「ロンドン暴動の研究」(共著)『山形大学紀要(社会科学)』43巻1号(2012.7)
- 論文: 「教育における国家の役割と時間軸」(単著)『公法研究』74号(2012.10.10)
- 判例解説: 「DNA型データベースの合憲性」フランス憲法判例研究会編『フランスの憲法判例II』(信山社・2013年3月)

(2) 教育, 地域連携等の活動

① 担当授業科目

- 学部専門科目: 憲法I, 憲法演習II, 教育法, 総合講座II(法律)
- 基盤教育科目: スタートアップセミナー, 日本国憲法

② 地域連携・高大連携活動

山形市情報公開・個人情報保護審査会委員（継続），山形県後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会委員（継続），山形県水資源・森林の保全に関する条例検討懇話会委員（2012年8月～2013年3月），高校出張講義（6月：酒田南高校）

（＊長井平和学習会講師：5月，山形県平和センター学習会講師：9月）

(3) 当該年度の研究，教育活動に関するコメント

個人の人権とセキュリティに関する共同研究の成果を共著論文として大学紀要に公表した。また，それに連なる研究成果として，DNA型データベースの合憲性にかかるフランス憲法判例の解説（を含んだ研究書）が公刊された。

教育面では，初めてスタートアップセミナーを担当した。テキストはあるものの，15回分の内容構成を考えるのに大変苦労し，実際にも試行錯誤の連続だった。1人の教員がマルチなスキルを学生に教え込むのは不可能に近いと感じる（私の能力の問題があるとしても）。もっと別なやり方があるのではないだろうか。

地域連携として，山形県の求めに応じ，法律学を専門とする立場から，山形県水資源・森林の保全に関する条例検討懇話会委員を務めた。（なお，2013年3月に山形県水資源保全条例が制定された。）

澤田 裕治

(1) 研究成果

- ・研究報告
- 沢田裕治「安達峰一郎と非戦の制度化」〔山形大学都市・地域学研究所編『山形の魅力再発見 パート10：山形学研究10』，pp. 14-18，平成25年1月30日〕（査読無）
- ・翻訳
- ポール・ミッチェル（著），沢田裕治（訳）「動産売買における品質保証債務の歴史的展開」〔『山形大学紀要（社会科学）』43巻2号，pp. 219-245，平成25年2月〕（査読有）
- アンドレーアス・ヴァッケ（著），沢田裕治（訳）「*Casum sentit dominus*: ローマ法及び現代ドイツ物権法・債務法における偶発的損害に対する責任」〔『山形大学法政論叢』56号，pp. 63-102，平成25年3月〕（査読有）
- ・口頭発表
- 沢田裕治「中世都市ロンドンの裁判と法に関する一考察」〔西欧中世史研究会（上智大学秦野キャンパス），平成24年8月26日〕

(2) 教育，地域連携等の活動

■平成24年度の担当授業の紹介

〔山形大学における講義・演習等〕

- ・教養教育科目：基礎から考える法学，基礎からの民法
- ・専門教育科目：専門基礎演習，西洋法制史，西洋法制史演習，〔山形県立保健医療大学における講義〕 法学

〔山形県立産業技術短期大学校における講義〕 法学概論

〔山形市立済生館高等看護学校における講義〕 看護関係法規Ⅰ

〔調査研究〕 山形大学都市・地域学研究所の安達峰一郎研究第3次調査団（松尾剛次，澤田裕治，中澤信幸）としてオランダ・ベルギーを訪問〔2012年5月6日～12日〕。

オランダのハーグでは，1931年11月1日付 De Telegraaf 掲載の Louis Raemaekers のカット絵に関連する新資料を発見し，安達の住居と国葬墓地を確認。また国際司法裁判所の小和田恆判事（前所長）と会談し，今後の安達研究の在り方に関して指導と示唆を得た。また，ベルギーのルーバン大学で，寄贈日本図書について研究した。

〔世界平和学術シンポジウム〕 6月10日に，九州大学の柳原正治教授を招いて，「安達峰一郎と国際法の歴史」をテーマとする世界平和学術シンポジウムを開催し成功させた。

〔2011年オープン・キャンパスでの模擬講義〕 7月30日のオープン・キャンパスにおいて講義名：「基礎から考える法学—『世界の良心』安達峰一郎と日本国憲法—」を実施。

■地域貢献活動

〔記念行事〕 第2回安達峰一郎記念世界平和弁論大会〔2011年11月24日。山辺町が生んだ世界的偉人「安達峰一郎」の平和の精神を受け継ぐ弁論大会として山形大学都市・

地域学研究所と山辺町が企画した記念行事。中・高生を対象に実施〕の企画・運営

山形大学医学部附属病院医薬品等受託研究審査委員会委員

山形県立保健医療大学倫理委員会委員

山辺町・山形大学連携協定懇談会委員

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

研究では，不法行為法の危殆化責任と危険負担との関係を理論的に解明するために，アンドレーアス・ヴァッケの論文に依拠して，ローマ法とドイツ法について比較法的研究を実施した。また，瑕疵担保責任の歴史的展開を解明するため，ポール・ミッチェルの論文について研究した。

〔科研調査研究〕 2013年2月28日～3月8日。イギリスにて科研調査研究。ロンドンを中心とする現地調査を実施し，併せてロンドン大学のポール・ミッチェル教授，オックスフォード大学のポール・ブランド教授と面談し，科研研究につきプレゼンテーションを実施して，科研研究のステップアップを図った。

教育では，教養教育科目において，『対話 Dialogue21』と『対話 Dialogue22』と題するミニコミ誌を毎回発行し，学生同士と教員の相互コミュニケーションにより，講義内容の血肉化を図り，受講者から好評を得た。

下平 裕之

(1) 研究成果

〔著書〕

- ・北川忠明，山田浩久編『地方都市の持続可能な発展を目指して』山形大学出版会，2013年1月（第5章「中心市街地の活性化」担当）。

〔ディスカッション・ペーパー〕

- 下平裕之・小峯敦・松山直樹「経済学史研究におけるテキストマイニング分析の導入：ケインズ『一般理論』と書評の関係」『人文学部法経政策学科ディスカッション・ペーパーシリーズ』(No.2012-E2), 2012年12月.

[学会報告]

- 「東日本大震災と経済学史研究：東北地方に拠点を置く研究者として東日本大震災をどう受け止めるか」(経済学史学会東北部会第33回例会, 2012年4月28日, 東北大学)

[研究会報告]

- テキストマイニング手法の経済学史への適用に関する報告(第38~41回経済思想研究会, 東北大学他)

(2) 教育・地域連携等の活動

- 教育活動

山形大学における担当授業：

[学部] 経済思想, 経済学史, 経済学史演習, 地域づくり特別演習(夏季集中), 公務員講座(講義, 小論文指導)

[基盤教育] 最上川俯瞰講義, 震災復興学入門

非常勤：羽陽短期大学(経済学)

- 地域連携活動

高校での出張講義等：新庄北高校(研究室訪問, 出張講義)

山形財務事務所財務モニター

山形大学まちづくり研究所・仙山圏交流研究会への参加

山形大学東北創生研究所・社会創生研究部門長

ながい市民未来塾講師

山形県技術士会主催によるセミナーにおける講演(2012年10月)

災害復興市民講座(山形市・仙台市)における講演(2012年12月)

山形ロータリークラブにおける災害復興学に関する講演(2013年3月)

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動については科研費研究テーマ(テキストマイニング手法の経済学史への適用)に関わるディスカッション・ペーパーを刊行し, これまでの研究成果を広く公開するための第一歩となった。また研究会において引き続きテキストマイニングに関する共同研究を継続した。

教育・地域連携活動については, 東北創生研究所の研究展開を進めた他, 福島大学・宮城教育大学と連携した震災復興に関する基盤教育科目のオーガナイザーを務めた。また長井市における地域連携活動を書籍にまとめるに当たり, 分担執筆者として参加した。

尻無濱 芳崇

(1) 研究成果

【論文】

- 尻無濱芳崇 (2012) 「非営利組織へのBSC導入効果：文献レビューに基づく考察」『原価計算研究』第36巻第2号, pp.130-140.
- 荒井耕・尻無濱芳崇 (2012) 「医療法人における原価計算利用法の実態：影響機能の利用と焦点化」『原価計算研究』第36巻第2号, pp.104-114.

【学会報告】

- 尻無濱芳崇 (2013) 「組織の非営利性測定尺度の開発—MCS研究での利用を目指して—」日本原価計算研究学会関東部会 (2月15日報告).
- 尻無濱芳崇 (2012) 「介護施設経営法人の業績管理システム—組織の非営利性が業績管理システムに与える影響—」日本原価計算研究学会第38回全国大会 (9月8日報告).
- 荒井耕・尻無濱芳崇 (2012) 「医療法人における管理会計実践の法人規模別状況」日本原価計算研究学会第38回全国大会 (9月8日報告).

(2) 教育・地域連携等の活動

- 教育活動

特になし

- 地域連携活動

特になし

(3) 平成24年度の教育・研究活動に関するコメント

研究活動では、介護事業を対象に営利企業と非営利組織の違いを管理会計の面から明らかにする研究を積極的に行った。論文2本、学会報告3回と積極的に研究を学外に発表することができたと思う。

教育活動・地域連携活動は、当時は大学院生ということもあり十分取り組めなかった。今後の課題としたい。

鈴木 明宏

(1) 平成24年度の研究成果

- Income earning opportunity and work performance affect donating behavior: evidence from dictator game experiments, The Journal of Socio-Economics 41(6), 2012.
- Soft Budget Constraints Problem without Interregional Transfers, 山形大学人文学部法経政策学科 Discussion Paper Series 2012-E01, 2012.

(2) 平成24年度の教育、地域連携等の活動

教育

専門：ゲーム理論・産業組織論・意思決定論演習

基盤教育：現代の経済理論・スタートアップセミナー

大学院：ゲーム理論特論

地域連携

仙山交流研究会・まちづくり研究会メンバー

出張講義（福島県立橘高等学校）

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

本年度までに行った実験結果については日本経済学会と数理社会学会で報告している。

砂田 洋志

(1) 研究成果

- ・「長野県飯綱町の公共交通システムに関する調査報告—i（アイ）バスの調査報告—」
（山形大学紀要（社会科学），第43巻第2号 ,pp.167-191,2013年2月.

(2) 教育，地域連携等の活動

担当授業

計量経済学，統計学，専門演習（学部），情報処理（基盤教育）

地域連携

The 11th World Meeting of the International Society for Bayesian Analysis 大会組織委員会委員
（2012年6月，京都市で開催）

山形県統計利用アドバイザー

山形県市町村職員共済組合における学識監事

山形・仙台圏交流研究会への参加

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

計量経済学関係の研究では，平成25年に公刊された『ベイジアン計量経済学ハンドブック』の担当部分を翻訳した。

教育関係では，講義ノートを配布するなどして，学生の理解を深めることに力を注いだ。

高倉 新喜

(1) 研究成果

- ・平良木登規男ほか編『判例講義刑事訴訟法』（悠々社，2012年）162-166頁 [高倉新喜執筆]，
218-221頁 [高倉新喜執筆]
- ・ケント・ローチ「えん罪委員会の役割—誤判の発見，組織改革またはその両方？」（翻訳・高
倉新喜，翻訳協力・菊地裕子）日弁連えん罪原因究明第三者機関 WG 編『えん罪原因を調査
せよ』（勁草書房，2012年）95-122頁
- ・高倉新喜「裁判員裁判における公判前整理手続と刑事精神鑑定—複数鑑定回避論について」白

取祐司編著『刑事裁判における心理学・心理鑑定の可能性』（日本評論社，2013年）187-214頁
（共同研究「刑事法学と心理学—刑事裁判心理学の構築に向けて」（科研基盤(A)）（2007年～2010年）の研究成果）

- 高倉新喜「判例評釈・保釈保証金没取請求事件—最高裁判所平成22年12月20日第二小法廷決定—」『山形大学法政論叢』54=55号（2012年）59-72（逆）頁

(2) 教育，地域連携等の活動

- 専門科目：刑事訴訟法

刑事法基礎

刑事訴訟法演習

法と裁判

総合講座Ⅱ（刑事法3・刑事法4）

法経政策専門基礎演習

- 地域連携

出張講義：宮城県泉高等学校（テーマ：「法律学って，何やるの？」）

山形県立鶴岡南高等学校（テーマ：「法律学って，何やるの？」）

山形県介護保険審査会委員

山形県精神医療審査会委員

山形地方裁判所簡易裁判所判事推薦委員会委員

山形県弁護士会綱紀委員会予備委員

取材協力：共同通信社（闇サイト事件），テレビユー山形（裁判員法施行3年），山形新聞（飯豊事件控訴審判決）

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面においては，科研基盤(A)の研究分担者としての研究成果を発表することができた。教育面においては，法経政策専門基礎演習を初めて担当し，リーガル・リサーチについて学生に指導することができた。刑事訴訟法演習では，現地学習として山形少年鑑別所および山形刑務所の見学を実施することができた。

高橋 和

(1) 研究成果

著書（共著）『変貌する権力政治と抵抗』，彩流社，2012年11月

論文（単著）「欧州東部における越境地域協力（CBC）の変容—EU対ロシア？—」，『山形大学紀要（社会科学）』第43巻第2号 平成25年2月，19-34頁

（単著）「チェコ・ドイツ和解はいかに行われたか？—追放ドイツ人をめぐって—」早稲田大学『早稲田平和学研究』第6号，平成25年3月，19-36頁

(2) 教育, 地域連携等の活動

(教育)

- ・専門科目 国際関係論, 国際公共政策, 地域の国際化, 政治学入門国際関係論演習 を担当
- ・大学院 国際関係特論, 国際関係特別研究を担当

(地域連携等)

- ・出張講義 福島県橘高等学校
- ・山形県労働委員会公益委員
- ・山形労働局 最低賃金審議会公益委員
- ・山形県公立大学法人評価委員

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

教育では, 国際公共政策の授業でクリッカーを使用し, 参加型の授業を試みた。

国際関係論演習では, 実践的授業の試みとして, 前年につづき, 大学祭でフェアトレードに対する啓蒙活動とフェアトレードのコーヒーを販売し, その収益をモザンビークのエイズ孤児支援を行っている NGO・KLIMA へ寄付をした。

大学院の授業では, 上記の授業を行うとともに修士論文の指導を行った。

高橋 良彰

(1) 研究成果

「物権変動理論と実務の将来」2012年5月『不動産取引とリスクマネジメント』日本加除出版 (pp.303-322)

(2) 教育, 地域連携等の活動

金融取引法入門 (前期ゼメ), 相続法 (後期), 教養教育 (前期), スタートアップセミナー (前期), 民法演習 III (通年)。この外, 出張講義など。

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

進路指導委員会の委員としてインターンシップ担当となったが, その事前事後レポートの添削に携わった。

田北 俊昭

(1) 研究成果

研究に関しては, 項目①から⑪までである。学術論文は①であり, 研究発表は項目②から⑥までである。その他は⑦から⑨である。地域ブランド経済・経営学の分野の理論。実証分析, これまでには行われた実践的な研究も進めている。

- ①「高級米の地域ブランド評価方法—日本の新品種「つや姫」の事例—, 山形大学紀要 (社会科学) 第43巻第1号, 平成24年8月,
- ②研究セミナーとして, シルクシンポジウム in 米沢「シルク文化を活かした米沢織と地域ブランド戦略について」で講演及び企画オーガナイザー (主催: 米沢繊維協同組合連合会・米沢市,

- 共催：山形おきたま農業協同組合・山形県蚕糸業会・山形大田北研究室）をした（2012年5月）。③「果樹や樹木に関する地域ブランドの評価方法の構築と地域戦略—桜桃等の事例紹介と銀杏・杉等銘木の地域・訪問地ブランド化を考える—」，日本北方圏域文化研究会，2012年10月，
- ④「西洋なしの高級品種「ラ・フランス」の地域ブランド価値」2012年度応用地域学会青森大会，2012年11月，
- ⑤「地域ブランド経済・経営学の重要性と地域ブランド戦略について—中山間地域に地域ブランド産業を興し，日本・世界ブランド化するにはどうすればよいのか？」，大阪大学大学院経済学研究科経営学研究会（共催：大阪大深尾研究室・山形大学田北研究室），2013年1月，
- ⑥「国家地域ブランド戦略に基づいた地域ブランド経済・経営の重要性と大阪からの世界ブランドプロジェクト—文化遺産から自然遺産，神社仏閣，岡本太郎・野口英世・桂太郎・小林一三から上方芸人，万国博覧会・オリンピックまで」，地域ブランド研究会（大阪），大阪大学産学官連携センター（吹田キャンパス），2013年3月
- 地域ブランドの構築にあたり，音楽作品の創作（⑦）も行っている。作曲家の指導等をいただき，「羽前おきたま白竜湖伝説」（作詞：田北俊昭・作曲：田北俊昭）を作成した。これは地域ブランド経済の分野の実践的研究である
- 外部資金では，⑧文部科学省科学研究費の挑戦的萌芽的研究「地域ブランドに関する都市・地域学的研究」を獲得し，調査研究以外にも，産学官間プロジェクトとして，⑨地域ブランド商品企画（守秘義務あり）数点へと進展している。これは，地域ブランド経済の研究の実践的研究と位置づけられる。
- 研究会として，学外では，東北大学院情報科学研究科での⑩地域科学ワークショップに参加している。

(2) 教育，地域連携等の活動

■教育・地域連携は，項目①から⑮である。

- 大学では，①都市経済と情報（1年），基礎演習（2年），地域科学（2年），経済情報科学（2年後期），経済情報科学（3年前期），経済情報科学演習（3・4年），大学院では，②社会経済システム特論・特別演習と特別研究を行っている。③大学院生の研究指導1名および修士論粉の主査を行った。
- 教育における学生企画型の地域社会連携で，④公開学生フォーラム「地域ブランド戦略および観光学の視点から，山形を考える」について，大学コンソーシアムやまがたで，山形大学基礎演習（田北ゼミ）および山形大田北研究室が企画運営を行った（2012年7月）。
- 社会連携プログラムとして，蔵王山形地域ブランド・研究セミナー⑤「地域ブランド経済・経営の重要性と地域ブランド戦略について—蔵王・山形・東北から日本・世界ブランドを目指すために」（主催：山形大学田北研究室・蔵王温泉観光協会，後援：山形大学）に，地域経済系学生50名程度参加した（2013年2月）。●学術調査では，⑥「3D映像配信に関するアンケート調査」の実施について（2013年1月）を院生と行った。

■社会連携については，

- 自治体の委員会委員, 審議会委員, 他大学等の評価委員について, 経済産業省事業について, ⑦2013年度「経済産業省派遣専門家」として併任し, 東北地域の企業に対する支援を行った。
- 学外団体との研究会への参加として, ⑧秋田県能代市二ツ井町商工会と連携して, 「地域ブランドとしての「天然秋田杉・世界遺産白神山地ぶな・銀杏山神社乳いちょう・きみまち阪」について」についての意見交換を行った(2012年11月)。
- ⑨米沢地域ブランドとして, 「米沢・やまがたから日本や世界を目指す地域ブランド戦略と産業創出を考える」—今年度総括と来年に向けて—(場所: 上杉伯爵邸, 主催: 山形大学田北研究室・地域ブランド経済研究所準備室, 共催: 山形県蚕糸業会・米沢繊維協同組合関係者, 協力: 米沢牛のれん会関係者)(2012年12月)を議論した。
- ⑩「羽前やまがたの絹文化の継承事業(企画案)」(県蚕糸業会事務局と山形大学田北研究室)会議(2012年8月)を行った。
- 産業支援(NPO法人へのアドバイザ活動や学外国際交流事業への協力なども可)では, 2012年度の経済産業省派遣専門家として, ⑪県内繊維業の世界ブランド化に対する指導を行った。
- 非常勤講師を除く他大学等への教育支援活動として, ⑫東北大学大学院情報科学研究科の地域科学分野の研究発表等の参加(平成24年度前期)を行った。
- その他, 新聞, テレビ等マスコミへの取材協力など
- ⑬山形新聞社(2013年5月28日)および⑭テレビユー山形で放映(2013年6月)「シルク文化を活かした米沢織と地域ブランド戦略について」(講演及び企画オーガナイザー)(主催: 米沢繊維協同組合連合会・米沢市共催: 山形おきたま農業協同組合・山形県蚕糸業会, 山形大学田北研究室), ⑮山形新聞社で, 「シルクカクテル開発, “文化”生かしブランド化 山形大人文学部の研究室と山形の飲食店」(2013年2月16日)が紹介された。

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

■以上のように, 多忙な1年だったが, ひとつのスタイルができた。

立松 潔

(1) 研究成果

◆論文

「深刻化するデフレ経済と地域経済の課題」(『山形県の社会経済・2012年 年報第25号』山形県経済社会研究所発行, 2012年12月20日, pp.16-27)

◆報告書・テキスト等

山形大学基盤教育院編集『なせば成る!改訂版』山形大学出版会, 2013年1月10日

山形大学基盤教育院基盤教育評価改善会議『山形大学基盤教育評価改善報告書 平成24年度』2013年3月29日

(2) 教育, 地域貢献等の活動

■担当授業の紹介

○基盤教育科目

「Jリーグと地域社会」(教養セミナー)

- 他の教員との共同で担当する基盤教育科目
「現代社会の諸問題」（基幹科目・共生を考える）1回担当
- 専門教育科目
「日本経済論」前・後期
「地域経済論」後期
「日本経済論演習」通年（卒論指導も含む）
- オムニバス科目（他の教員と共同で担当）の専門教育科目
「公務員対策セミナー」事務局担当。講義，論文演習担当（計3回）
「総合講座Ⅲ」（経済・経営）：1回担当
- 大学院
「日本産業構造分析特論Ⅱ」
「日本産業構造分析特別演習」
「特別研究Ⅰ」
「特別研究Ⅱ」
- 地域貢献活動
- 審議会委員等
山形県職業能力開発審議会（会長）6月まで
山形県労働委員会（会長）
山形市地産地消の店認定委員会（委員長）
寒河江市地域づくり推進委員会（会長）
寒河江市地域振興審議会（会長）
- 出張講義等：
須賀川桐陽高校出張講義 2012年11月14日
テーマ：「地域づくりと観光振興」

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

平成24年度はデフレ不況の地域経済への影響についての研究に取り組み、山形県経済社会研究所の年報にその一部を発表することができた。またその成果を担当する授業（日本経済論，地域経済論）にも盛り込んだ。また、『なせば成る！』の改訂版の編集と執筆にも携わり，年度内に発行することができた。大学院では学位論文について学生2名の正指導教員，3名の副指導教員として修士論文等の指導を行った。

戸室 健作

(1) 研究成果

[著書]

- ・震災復興研究会『東日本大震災の地域経済への影響—企業経営・雇用・金融（山形大学人文学部叢書2）』山形大学人文学部，2013年2月14日 戸室担当：「第1章 東北における貧困の広がり」と震災の影響—雇用問題を中心にして」1-11頁。

[論文]

- 戸室健作「近年における都道府県別貧困率の推移について—ワーキングプアを中心に」『山形大学紀要 (社会科学)』43巻2号, 2013年2月15日, 35-92頁。

[その他]

- 人事給与研究会『被災地調査報告 岩手県陸前高田市・大船渡市・大槌町』自治労連・地方自治問題研究機構, 2012年6月15日 戸室担当:「Ⅲ 被災地を訪問して」24-29頁。
- 戸室健作「自由論題報告Ⅰ「労働運動」大会報告記」『日本労働社会学会通信』第25期第4号, 2013年2月20日。

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業科目]

- 専門教育科目: 社会政策論, 社会保障論, 労働と生活, 専門基礎演習, 社会政策論演習, 卒業論文指導, 法経政策総合講座Ⅰ (オムニバス1回担当)
- 大学院: 社会政策特論Ⅰ, 社会政策特別演習
- その他: 公務員対策講座の講義

[学会活動]

- 日本労働社会学会幹事 (研究活動担当, 労働調査等プロジェクト委員会担当)
- 社会政策学会第125回大会の書評分科会 (2012年10月14日: 長野大学) において拙著『ドキュメント請負労働180日』(岩波書店, 2011年) が書評され, その会場でリプライを行う。
- 日本労働社会学会第25期第1回研究例会の司会を担当する (2013年3月2日15:30-18:00, 専修大学神田キャンパス)。

[地域連携等]

- 連合山形寄付講座「労働と生活」担当
- 山形大学職員組合人文学部支部執行委員 (会計)
- 日本科学者会議山形支部会計監査員
- 自治労連・地方自治問題研究機構「人事・給与研究会」委員
- 公益財団法人東北活性化研究センター「東北の若者の就労調査研究会」委員
- 若者支援NPO「ぷらっとほーむ」が主催する「ぶれカフェ」でのワークショップの講師を担当 (2012年11月3日19:00-21:00, 山形まなび館)
- 宮城県富谷高等学校の高校生への模擬講義 (2012年11月8日11:00-12:00, 山形大学人文学部棟1号館103教室)

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では, 都道府県別の貧困率に関する論文をまとめることができた。貧困率の計算, 見直しに多くの時間を要した。また, 人事・給与研究会のメンバーで, 2012年9月に約1週間のイギリス調査を行い, 色々と刺激を受けた。教育面では, 寄付講座「労働と生活」の授業が2012年度から新たに始まり, 準備等の面で初めてのことがあったが無事終えることができた。

中島 宏

(1) 研究成果

[論文]

- ・「フランスにおけるブルカ禁止法と共和国の課題」憲法問題23号（2012年5月）24～35頁
- ・「空知太神社事件最高裁判決と目的効果基準」宗教法31号（2012年10月）147～165頁

[判例評釈]

- ・「警察留置制度の合憲性・事情変更と合憲性再審査・違憲判決の効力」フランス憲法判例研究会編『フランスの憲法判例Ⅱ』（信山社，2013年3月）335～339頁

[翻訳]

- ・リュック・ホッシュリング「フランスのイスラム問題におけるライシテ概念の展開」植野妙実子編著『法・制度・権利の今日の変容』（中央大学出版部，2013年3月）416～444頁

[研究報告]

- ・「公立学校における十字架設置の条約適合性—欧州人権裁判所2011年3月18日ラウツィ大法廷判決—」（第12回慶應義塾大学フランス公法研究会，2012年12月16日，慶應義塾大学）

(2) 教育，地域連携等の活動

[教育]

- ・専門科目：法経政策専門基礎演習，憲法Ⅱ，憲法Ⅲ，憲法演習Ⅰ
- ・基盤科目：日本国憲法，教養セミナー「マンガ規制を考える」
- ・大学院：人権論特論Ⅰ，人権論特別演習
- ・非常勤：東北文教大学（「くらしと憲法」），福島大学（「憲法Ⅱ（統治）」後半），東北文教大学短期大学部（「日本国憲法」）

[地域連携]

- ・審議会：山形市個人情報保護制度運営審議会委員，天童市情報公開・個人情報保護審査会委員
- ・取材協力：山形新聞2012年12月19日「選挙公報が期限まで届かず・東根」

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

教務正および実践教育プログラム準備連絡会の職責を果たしつつ，大学院の講義および他大学での非常勤を初めて経験し，憲法Ⅱ・Ⅲを全く一新して対話式の判例分析に特化し，原稿の締切に追われ，確かに多忙な日々であった。それでもなお一定の研究成果を得ることができた。感謝申し上げたい。

西岡 正樹

(1) 研究成果

[論説]

「累犯加重に関する一考察」法政論叢56号（2013年）1頁以下

[判例評釈]

「犯行現場に同行したものの実行行為を行わなかった者について，不作為による共同正犯の成立

が認められた事例」法政論叢54・55合併号 (2012年) 73頁以下

(2) 教育・地域連携等の活動

〔教育〕

① 担当授業科目 専門教育：刑事法基礎 (刑法担当), 総合講座Ⅱ (法律), 刑法Ⅰ, 刑事政策, 刑法演習Ⅱ

〔地域連携等〕出張講義 宮城県立仙台三桜高等学校
栃木県立大田原女子高等学校

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

3年目となる今年度は、新たに受け持つ科目の授業準備に時間を割くことも多かったが、前年度同様に諸先生方の協力の下で教育・研究活動に専心することができた。研究活動としては、専門とする刑事責任論に関して累犯加重規定と責任概念に関する研究を中心に行ない、その一部を公表した。当該研究については科研費を獲得しており、現在も研究を継続している。

西平 直史

(1) 研究成果

西平直史：システム制御理論を用いたサプライチェーンの解析と一改良法—プッシュ方式の場合；山形大学人文学部研究年報，第10号，27/36 (2013)

(2) 教育，地域連携等の活動

教育：経営システム，応用情報処理，情報・システム論演習，専門基礎演習，観光と経営を担当した。また，大学院では経営システム特論を担当した。

地域連携：山形仙台圏交流研究会への参加，高校への出張講義などを行った。加えて，次世代旅館経営者育成プログラムにも参加した。

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

研究では，従来から進めているむだ時間システム表現を用いたサプライチェーンの解析について，プッシュ方式の解析と改良についての結果を得ることができ，論文として公表した。また，まちづくり研究所の研究の調査も進めている。

教育では学部や基盤教育の授業に加えて，大学院生の講義を行った。

藤田 稔

(1) 研究成果

「審決評釈 日本音楽著作権協会に対する公正取引委員会の審判審決」山形大学紀要 (社会科学) 第43巻42号193-217頁 平成25年2月

(2) 教育，地域連携等の活動

「経済法1」「経済法2」「経済法演習」「法的なものの考え方と知的財産権（法学）」「スタートアップセミナー」と、「総合講座1（公共政策）」の1コマを担当。（その他，東北学院大学で，非常勤講師を務めた。）

山形労働局で個別労働紛争調整委員として，労働紛争の解決のあっせんを行った。

独占禁止政策協力委員として，独占禁止政策のあり方について，公正取引委員会に対して，意見を述べた。

山形県弁護士会綱紀委員会委員として，弁護士倫理の維持に協力した。

日本経済法学会理事として，学会の運営に従事した。

東北経済法研究会で座長として研究を行った。

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

判例研究を通じて独占禁止法の法運用に関与した。

伏見 和史

(1) 研究成果

特筆すべきものはない

(2) 教育・地域連携等の活動

*下記の授業を受け持ち担当した

「企業活動と法律」（全学1年生対象）

「専門基礎演習」（人文学部法経政策学科2年生対象）

「国際取引法」（人文学部法経政策学科3・4年生対象）

「国際取引法演習」（人文学部法経政策学科3・4年生対象）

「国際契約論」（工学部理工学研究科MOT院生対象）

「キャリアガイダンス」（人文学部2・3・4年生対象）

*地域連携のための活動は下記の通りである

1) NPO法人「プロネット」会員として，弁護士，公認会計士，税理士，司法書士，社会保険労務士，土地家屋調査士等と共に，山形県において経済活動に携わる依頼者への助言

2) 山形県「入札監視委員会委員」として，県の入札案件に関してのチェックとアドバイス

3) 山形県「知的財産管理審査会委員長」として，県の知的財産権の保有，維持，管理に関してのチェックとアドバイス

4) 山形地方法務局「委託業務評価委員」として，法務局事務の第三者委託についての評価と助言

*人文学部進路指導委員会委員，全学就職委員会委員

人文学部学生の就職支援活動の一環として民間企業を多数訪問して人事部採用担当者と面談し，山形大学学生の特徴を紹介するとともに企業の採用方針や企業の求める学生像についてディスカッションし，これを学生にフィードバックすることによって学生の就職活動の一助とすることを目

指した。さらに学生のインターンシップ研修にあたって事前の助言・指導を入念に行い、研修後のレポート作成にあたっての指導を徹底して行うことによって仕事との関わりを深く自己分析させこれを具体的に表現させることによって地に着いた就職活動をおこなえるヒントとさせた。

(3) 平成24年度研究・教育活動に関するコメント

人文学部学生の進路傾向は地元志向・公務員志向が強いことである。一方、経済環境は円高継続による景気後退、世界同時不況、産業空洞化が加速されつつある。よって、学生へのアプローチでは、地域をしっかりと見据える「蟻の眼」と世界全体を見渡す「鳥の眼」とをもって勉強し、生活することの必要性・重要性を語っていきたい。

洪 慈乙

(1) 研究成果

- 洪 慈乙・内藤修広共著「あらゆる組織の会計を包摂しうる会計理論の構築を目指して——国立大学法人会計を手掛かりとして——」, 東北大学経済学会『研究年報経済学』藤井建人退官記念論文集へ2013年1月投稿, 2013年3月発行予定がまだ未発行。

(2) 教育, 地域連携等の活動

学部担当授業

- 専門科目: 会計学, 財務会計, 会計学演習,
- 基盤教育: 企業会計入門 (経済学) 前期・後期

大学院授業

- 企業経営特別研究および修士論文作成の指導

地域連携

- まちづくり研究会への参加
- 税理士会 (東北) 研修会の公開講座 (講師)
- 酒田西高等学校への出張講義

松本 邦彦

(1) 研究成果

「多文化共生論と歴史認識: 「嫌韓流」の挑戦を考察する」, 『北東アジア地域研究』18号023-033頁, 2012年10月

(2) 教育, 地域連携等の活動

○通常の講義・演習については略しまして…。

○昨年度までと同様, 人間文化学科の山崎彰先生とともに「地域づくり特別演習 (二)」を担当し, 学生の研修にあたっては山形市内の市民団体に多大な御協力をいただきました。

○7月12日, 福島県立磐城桜が丘高等学校「半日総合大学」にて模擬講義「なぜ戦後日本人は原発を信じてきたのか」。

- 7月28日, 山形大学人文学部オープンキャンパスにて, 模擬講義「辺境から世界に挑戦した日本: 近代日本の外交と国際法」
- 8月3日以降, 仙台・向山高校アカデミック・インターンシップの第四グループ《移民》を担当。

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

幸いにして2012年度から三ヶ年計画の科研費をいただきました。第一年度は主に戦前までの在日コリアンに対する「協和事業」について, 現代の「多文化共生」施策との比較を念頭に資料収集と研究を進めました。しかし成果の発表にまでは至りませんでしたので, 第二年度(現代の地方自治体の施策調査)とともに発表をめざします。

丸山 政己

(1) 研究成果

- ・(論文)「国連安全保障理事会における立憲主義の可能性と課題—国際テロリズムに関する実行を素材として—」『国際法外交雑誌』第111巻1号(2012年05月)20-46頁
- ・(判例評釈)「国連安全保障理事会決議に基づく狙い撃ち制裁の実施と欧州人権条約上の義務—Nada 対スイス事件(欧州人権裁判所大法廷2012年9月12日判決)」『山形大学法政論叢』第56号(2013年3月)35-62頁
- ・(研究報告)“Some Comments on “Constitutionalization” of International Law & Asia” (as commentator) アジア国際法学会日本協会第3回研究大会, 2012年6月(於 早稲田大学)

(2) 教育, 地域連携等の活動

- ・担当科目: 国際法, 国際組織法, 国際法演習, 総合講座I(公共政策), 国際組織入門(基盤), 国際組織法特論, 国際組織法特別演習(大学院)
- ・学内: 学部国際交流委員
- ・地域連携: 山形大学都市・地域学研究所, 「安達峰一郎と国際法の歴史」シンポジウム, パネリスト(2012年6月)
- ・その他

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

平成23年度から2年間, 学外の業務に従事した(あと数か月後に公表可能)。1か月のうち1週を東京で費やす必要があるため, ことのほか負担が大きかったが, 得るところの多い貴重な経験となった。研究面では, そうした多忙な環境のなかでも『国際法外交雑誌』に論文を掲載することができた。また, アジア国際法学会では, 欧州とアジアをそれぞれ代表する学者の報告に対する討論者を務める機会も与えられた。英語で自分の考えを積極的に発信していくことの重要性を改めて痛感した。さらに, 科学研究費補助金を獲得し, 平成25年5月の世界法学会での報告依頼もいただいた。平成24年度は, ややもすると研究がおろそかになる可能性もあったのだが, 研究を進めるきっかけを様々な形で外在的に提供されたことは本当に幸運なことであったと思う。

安田 均

(1) 研究成果

A. 学会・研究会報告

- ・「生活保護と失業救済」第38回仙台経済学研究会（東北大学人文系総合研究棟,12.08.12）。

B. 著書・論文

- ・「消費における労働一家庭に残る労働」経済理論学会『季刊経済理論』第49巻第4号,2013.1。

(2) 教育, 地域連携等の活動

A. 授業

経済原論（4単位）, 市場と組織（2単位）, 専門基礎演習（2単位）, 「(基幹科目) 市場と人間の生活」（2単位）, 「(教養セミナー) 格差を考える」, 学部共通科目「地域社会論」（2単位, 非常勤講師の紹介, 毎回のレポート及び単位評価担当）(別に大学院担当1名)。

公務員講座（春休み, 講義1コマ, 論作文2コマ）。

宮城学院女子大学「経済社会特論」（2単位）。

B. 委員会活動

学部広報委員会紹介部会（11.4-13.3）, (基盤教育) 授業改善作業部会（12.4-）。

C. 地域連携

・出張講義

天童高校（12.7.12）, 秋田県立横手高校（12.9.13）, 宮城学院高校（13.3.16）。

広報委員会紹介部会員として進路相談会（酒田西高,12.6/7）, 進学相談会（鶴岡中央高校,12.7.24）, 大学訪問（12.10.24, 築館高校）。

・三大学合同ゼミ（講師として参加）

「リバース・モーゲージ」（宮城学院女子大学,12.7.14）。

- ・解説記事「失業救済の現在」（山形県経済社会研究所『山形県の社会経済・2012年』（年報第25号, 2012年11月）。

- ・解説記事「経済指標の解説」（連合山形『春季生活闘争方針』,2013年2月）。

- ・人文学部と山形県村山総合支庁との共同研究「山形・仙台圏交流研究会」に毎月参加。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

最近, 学生気質が大きく変わり, ここ数年来の講義・試験スタイル（パワーポイントによる講述, 事後オンラインテスト, 論述式期末試験）が難しくなっている。状況の変化に応じた教育方法の改善を検討しているところである（講述を少なくし, オンラインでなく教室での復習, 確認に時間を割く）。

学外団体から要請される経済指標等の解説記事の執筆, あるいは共同調査への参加は研究の間口を広げてくれるので, 時間の許す限り引受けたい。

山口 昌樹

(1) 研究成果

著書

- ・『邦銀のアジア進出と国際競争力』山形大学人文学部叢書，2012年11月

論文

- ・「外国銀行の進出と信用供給の安定性—世界金融危機時のインドネシア—」『アジア研究』第58巻第1号，pp.1-17，アジア政経学会，2012年
- ・「アジアへの外国銀行の進出」『信用理論研究』第30号，2012年

寄稿

- ・「情報収集から“営業”へ—地銀駐在員事務所の業務—」『週刊金融財政事情』2013年新年特大号，pp.24-27

報告書

- ・「地方銀行による復興対応」震災復興研究会『東日本大震災の地域経済への影響』山形大学人文学部叢書2，pp.23-32，2013年

学会報告

- ・「地方銀行によるタイ国銀行との業務提携」日本金融学会国際金融部会，神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ，2012年4月7日
- ・「中国における邦銀の競争力」日本金融学会2012年春季大会，立正大学大崎キャンパス，2012年5月20日
- ・「アジアにおける外国銀行の展開—タイと中国を中心に—」日本金融学会2012年秋季大会，北九州市立大学，2012年9月16日
- ・「タイにおける関連融資—その変動要因と機能—」アジア政経学会2012年全国大会，関西学院大学，2012年10月14日

研究会報告

- ・「アジアにおける欧州主要銀行と邦銀との競合」中央大学経済研究所，公開研究会，2012年10月6日，中央大学後楽園キャンパス

第3回世界経済評論最優秀研究者論文賞

受賞論文 山口昌樹「中国における外国銀行の立地選択」『世界経済評論』2011年7／8月

(2) 教育，地域貢献等の活動

教育

- ・担当授業：教養セミナー，金融論，国際金融論，証券経済論，国際金融論演習，国際金融論特論II，国際経済法務特別研究I
- ・地域貢献
- ・放送大学の面接授業（6月30日，7月1日）
- ・出前講義：宮城県立築館高校（9月11日）
- ・出前講義：山形県立楯岡高校（2月19日）
 - ・人文学部公開講座の講師「円高と日本経済」（10月16日）

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

腰を据えて研究に打ち込むことができた。人文学部の教職員の方々に感謝したい。

山本 匡毅

(1) 研究成果

〔論文〕

- 「航空機産業における中堅・中小企業の新産業展開と公的支援」『戦略経営ジャーナル』 Vol.2 No.1 2012年12月 37頁-55頁

〔学会発表〕

- 「東日本大震災によるインフラ被害・復旧と中小製造業におけるサプライチェーンへの影響」日本経済政策学会第69回大会 (2012年5月27日)

(2) 教育・地域連携等の活動

一般財団法人機械振興協会経済研究所研究員として活動していたため、本務での教育・地域連携等の活動での該当はない。なお非常勤講師・兼任講師として、成蹊大学成蹊教養カリキュラム「地域理解トピックス (地域づくりの時代)」(2012年9月～2013年3月)、中央大学経済学部「地域政策」(2012年4月～2013年3月)を担当した。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

本学着任前であるが、地域活性化のための機械工業の振興に関する研究を進めた。